

画 报 集 刊

2006年度

講 義 計 画

桃山学院大学

講 義 計 画

| 科 目 名 | | | |
|---------|-------|-----|---------|
| 日本語 I a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 03 | 春学期集中 | 2単位 | 清 水 明 子 |
| 04 | 秋学期集中 | 2単位 | |

【講義概要・学習目標】

日本語の基本的な文法を習得後、さらなる語彙・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、運用力をつける。

【授業計画】

学生のレベルに合ったテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。

【成績評価の方法】

小テスト数回および期末試験を行う。出席を重視する。

【テキスト】

初回授業でプレースメントテストを行うなど、学生のレベルを把握した上で決定する。

【参考文献】

なし

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| 日本語 I b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 2単位 | 吉 岡 美 穂 |

【講義概要・学習目標】

日本語の学習はコミュニケーションのための重要な道具となるが、それだけでは日本の文化を理解することはできない。このクラスでは、言語のしくみと働きに焦点をあて、さまざまな角度から、「ことばと文化」のおもしろさを学んでいく。

【授業計画】

このクラスでは読解を中心に行い、内容を文章で要約する練習を行う。異文化に関する記事や文献を新聞、雑誌、小説から抜粋し、理解しながら、エクササイズを用いて異文化理解を深めていく。

【成績評価の方法】

出席、前・後期試験、宿題、小テストによって評価する。

【テキスト】

資料は教員が用意する。図書館にある参考文献についても授業で紹介する。辞書を必ず持参すること。

【参考文献】

異文化コミュニケーション入門 池田理知子（有斐閣アルマ）

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| 日本語 I b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 2単位 | 清 水 明 子 |

【講義概要・学習目標】

留学生の大学生活で必要とされる日本語能力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばすことを学習の目的とする。

「読む」ことの学習では、専門分野のレポート、論文、専門書などの専門的な文章を読むための基礎的な読解技術を学ぶ。具体的には文章構造・文章の論理構造・文法に関する知識を学び、段落読み・情報検索・アウトライン作成などの読解スキルを身につける。

「聞く」ことの学習では、講義を聞き取る力を養成することに重点を置くが、それだけでなく、ニュースや一般的な会話の聞き取りも含めて、実践的・総合的な聴解力を養成する。

【授業計画】

＜読解＞

前期は教科書を中心とした講義形式で基礎的な読解技術を学ぶ。後期は前期に学んだことの演習として発表形式で行い、岩波新書「若者の法則」をクラス全員で分担して読む。

＜聴解＞

前期・後期ともにレベルに応じた教材を使用して聴解力をつけていく。また、状況に応じてニュースなどの生教材も使用していく予定。

【成績評価の方法】

平常点（出席回数、小テスト）、発表、前・後期の期末試験によって評価する。

【テキスト】

『大学・大学院留学生の日本語①読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著 アルク

【参考文献】

『上級の手をつける聴解ストラテジー上・下』川口さち子他 凡人社

『講義を聞く技術』産能短期大学日本語教育研究室編 凡人社

| 科 目 名 | | | |
|----------|----------------|------------|-----------|
| 日本語 I b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 03 04 | 春学期集中 秋学期集中 | 2単位 2単位 | 三 木 由 里 子 |

【講義概要・学習目標】

日本語の基本的な文法を習得後、さらなる語彙・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに運用力をつける。

【授業計画】

学生のレベルに合ったテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。

【成績評価の方法】

小テスト数回および期末試験を行う。出席を重視する。

【テキスト】

初回授業でプレースメントテストを行うなど、学生のレベルを把握したうえで決定する。

【参考文献】

なし。

| 科 目 名 | | | |
|--------|------|-----|-------|
| 日本語Ⅱ a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 2単位 | 藤 原 健 |

【講義概要・学習目標】

大学に入って、1年以上経ち、まず何より留学生として日本語の実力不足を自分たち自身がいちばん痛感しているのではないだろうか。

日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、日本語の能力は思ったように伸びず、むしろ専門の科目の勉強などに忙しく、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなっているのが現状ではないかと思う。さらに、今までの初級や中級の「日本語の教科書」に出てきた日本語と、実際回りで見聞きする日本語の差に驚いているのではないだろうか。

この授業では、昨年度使用の『インタビューで学ぶ日本語』（凡人社）の残りの課（第6課以降）を使って、普通の日本人の日本語を聞き取る練習をし、日本人の自然な日本語になれる練習をする。

予習も復習も要らないので、とにかく授業にはまじめに取り組んでほしい。

【授業計画】

<聴解練習>

- (1) インタビューのテープを聞く。
 - ・会話の大意をつかむ。
 - ・シートの問いに従い、聞き直す。
 - ・設問に答える。
 - ・ストラテジーなどについて考える。
 - ・スクリプトを見ながら再度聞く。
- (2) 会話の内容について話し合う。
 - ・タスクシートの設問を利用する。

【成績評価の方法】

評価は進度に応じて年に数回の平常試験で行う。ただし、試験を受けるための条件として、その試験までの授業回数 $\frac{3}{2}$ 以上を必要とする。また、「授業中の携帯電話（見る、音が鳴る）」、「授業中の私語」、「忘れ物」は、大きく減点する。詳しくは、授業初回に説明する。

【テキスト】

（コピーを配布する。）

【参考文献】

山本一枝・田山のり子・坂本恵（共著）『はじめての専門書』（凡人社）

| 科 目 名 | | | |
|--------|------|-----|---------|
| 日本語Ⅱ a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 2単位 | 串 田 真知子 |

【講義概要・学習目標】

専門分野での勉強・研究に不可欠な論理的思考に基づいた表現能力、特に「書く」「話す」能力の養成を目指している。具体的には日本語によるレポート・論文の基本的書き方の学習、ゼミでの研究発表に備えたプレゼンテーションの方法（発表原稿を書き、口頭発表を行う）の学習、話す能力を高めるためディベートの学習などを行う。

【授業計画】

- ① レポート・論文の基本的書き方
- ② レポート・論文の語彙・文型・表現の学習
- ③ 論文の各構成要素と論理的展開パターン \rightarrow の学習
- ④ 図表の提示・引用・要約の方法
- ⑤ プレゼンテーションの方法
- ⑥ ディベートの方法

以上を段階的に学習する。毎回、課題を課し、修得状況を確認する。

【成績評価の方法】

試験50%、出席20%、提出物20%、平常点10%で総合評価する。

【テキスト】

大学・大学院留学生の日本語④論文作成編／アカデミック・ジャーナル研究会編著／アルク

【参考文献】

『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他 くろしお出版
 『知へのステップ 大学生からのスタディスキルズ』学習技術研究会編著 くろしお出版
 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』大島弥生他 ひつじ書房

な
行

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 日本語Ⅱb | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 2単位 | 吉 岡 美 穂 |

【講義概要・学習目標】

- (1) 自文化と異文化の関係について考える。自己を知らずして他者を理解できないのと同様、自文化に対する十分な理解なしには異文化を理解することはできない。異文化理解とは「自分探しの旅」から始まるということをこの授業で学ぶ。
- (2) 異文化コミュニケーション能力の育成：ディスカッションを通して、他者の意見を尊重し、異なる視点から物事を見る能力を養う。

【授業計画】

このクラスでは講義とエクササイズ、ビデオ、各自の体験などを参考にしながらディスカッション形式を用いる。そのためには皆さんの積極的な参加が必要である。

【成績評価の方法】

授業参加と出席、前期・後期テスト、レポート

【テキスト】

テキストは使用せず、教員が用意する。辞書を必ず持参すること。

【参考文献】

- ・「異文化コミュニケーション・新国際人への条件」古田暁（有斐閣選書）

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 日本語Ⅱb | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 2単位 | 清 水 明 子 |

【講義概要・学習目標】

専門分野での勉学・研究に必要な日本語力のうち、特に「読む」「聞く」能力の養成・強化を目指す。「読む」ことの学習では、読解のストラテジーを学び、各自の専門分野の文章を独力で読んでいくための実践的な読解技術を身につけていく。「聞く」ことの学習では、予測して聞くことに重点を置き、予測の契機となる文法表現について学ぶ。さまざまなテーマの内容をさまざまなスタイルの話し言葉で聞くことにより、聞いて理解できる内容の幅を広げることをねらう。

【授業計画】

<読解>

前期は教科書中心の講義形式で読解のストラテジーを学ぶ。後期は前期に学んだことの演習として各自が選んだ文章(新聞の社説・コラムや雑誌、専門書など)についてその内容と読み解き方を発表する。

<聴解>

『予測して読む聴読解』(参考文献参照)のCDを使用して、予測の契機となる文法表現や話題の背景知識について学ぶ。状況に応じてビデオを使いニュースなどの生教材も使用していく予定。

【成績評価の方法】

平常点(出席回数、小テスト)、発表、前・後期の期末試験によって評価する。

【テキスト】

『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク

【参考文献】

『予測して読む聴読解—現代日本事情に関する38章』佐々木瑞枝 監修 アルク

| 科 目 名 | | | |
|--------|-------|-----|---------|
| 日本語学概論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 有 川 康 二 |

【講義概要・学習目標】

日本語学習者の質問。「は」に濁点がつくと、「ば」。でも、何故「な」に濁点をつけた「なゝ」は発音できないの？「大型」は「おおがた」。なのに「大風」は「おおがぜ」とは言わない。何故？「病気の人」とは言うけど、「元気の人」とは言わないのは何故？「きれいです」は「きれいだ」とも言えるけど、「うつくしいです」は「うつくしいだ」と言えないのは何故？「猫が金魚を食べた」は変だけど、何故、変だと感じるの？この時、頭の中は何がどうなってるの？

日本語の母語話者は日本語を、文法など意識せずに自由に使える。日本語は馬鹿らしい程当たり前のことだ。しかし、日本語の音や文法の法則や仕組みを説明することはできない。(誰でも脳味噌は使えるが、その法則やメカニズムは説明できない。)[「経験科学」の手法を用いてヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを探る。科学は、誰もが当たり前過ぎて考えるのも馬鹿らしいと思う事柄に驚嘆することから始まる。その意味では、「自然言語(ことばをしゃべる)」「重力(ものが落ちる)」や「光(明るい・暗い)」とともに科学の格好の対象となる。

日本語を三つの視点から概論する。(1) 生物言語学の視点＝自然言語は、自然が創造した脳の突然変異と創発的自己組織化によって出現したが、その一般的性質とは何か？(2) 日本語教育学の視点＝日本語を外国語として学ぶ人々にとって、日本語の客観的な説明とは何か？(3) 哲学的視点＝私とは何者なのか？私はこの宇宙の中で何をし、老い、死んでいくのか？(大学とお寺でしか言われないので我満して考えて下さい。)

【授業計画】

- (1) ことばを科学する、こころを科学する。
- (2) 音の問題。音素、連濁、活用変化など。
- (3) 単文の構造と意味の問題。

【成績評価の方法】

出席・筆記試験

【テキスト】

寺村秀夫(1978)『日本語の文法(上)』国立国語研究所
有川康二(2005)『日本語学と生物言語学の対話』(教科書用自費出版)
(その他、必要に応じて、配布プリントを使用する。)

【参考文献】

寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版
寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版
畠山雄二(2003)『情報科学のための自然言語学入門—ことばで探る脳のしくみ』丸善
野村奉幸(2005)『プラトンと考えることばの獲得—成長する文法・計算する言語器官』くろしお出版

【備考】

<02～06生>
共通自由科目として、LE・LI生対象外
LE・LI生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| 日本語教授法 I | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 有 川 康 二 |

【講義概要・学習目標】

どんな教授法(教え方の哲学や方法)、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、(教師のための)実践的な文法整理と、(学習者のための)効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。

一定の制限された状況(教室内)や時間内(初級の集中コースとして例えば週15時間で約6か月)に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別の知識と技術が必要となる。何語でもそうだが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物である。同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか？何故、私は日本語を外国語として教えるのか？」という問いを問い続けなくてはならない。

【授業計画】

指示表現(コソアド)

形容詞

存在表現

時制(テンス)と相(アスペクト)

保留形(テ系)

願望の助動詞ta/gar

可能の助動詞e/(ra) re

様態・推量の助動詞ソウダ/ヨウダ/ラシイ

テイル・テアル・テオク(窓が開イテイル・開ケテアル・窓ヲ開ケテオク)

授受表現(ヤル・アゲル・モラウ等)

態(受身・使役・使役受身)

条件表現(雨が降ッたら～・降ルナラ～・降レバ～・降ルト～)

敬語(オ読ミニナル・オ読ミスル・ナサル・イタス)

【成績評価の方法】

出席・筆記試験

【テキスト】

東京YMCA日本語学校(編)(1992)『入門日本語教授法』創拓社

【参考文献】

三浦昭(1983)『初級ドリルの作り方』凡人社
岡崎敏雄(1989)『日本語教育の教材—分析・使用・作成』アルク
Makino, S. and Tsutsui, M. (1986) A dictionary of basic Japanese grammar—日本語基本文法辞典, The Japan Times.

【備考】

<02～05生>

E・SS・SW・B・J生は、日本語教員資格科目(随意)として履修

な
行

| 科 目 名 | | | |
|-------------|-------|-----|---------|
| 日本語教授法Ⅱ [4] | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 友 沢 昭 江 |

【講義概要・学習目標】

日本語学習者の多様化に対応するためにさまざまな教授法や教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景などを考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼をもたなければなりません。

本講では教授法Ⅲで行う模擬授業などに必要な教授法の基本と教材の分析研究を中心に学びます。

【授業計画】

- ・日本語教師の資質について
- ・教師の自己成長
- ・教科書分析
- ・教案作成
- ・授業観察
- ・日本語の授業の実際（4技能—Speaking/Listening/Writing/Reading—の指導とその統合）

【成績評価の方法】

学期の中間期と学期末に試験を行います。それ以外にも授業への参加姿勢、課題レポートの成績および出席状況を総合的に考慮して評価を行います。資格関連の科目なので、出席は最重要視されます。

【テキスト】

『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上』（川口義一&横溝紳一郎、ぴつじ書房、2005）

【参考文献】

- ・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 下』（川口義一&横溝紳一郎、ぴつじ書房）
- ・『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社）
- ・『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）
- ・『中上級を教える人のための文法ワークブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）

| 科 目 名 | | | |
|-------------|-------|-----|---------|
| 日本語教授法Ⅲ [4] | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 友 沢 昭 江 |

【講義概要・学習目標】

本講では、日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を統合して、効果的な教育を行うための実践力の養成を目的とします。

知識として獲得したことをいかに分かりやすく提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題に適切に対応するかを実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として教授法関連の基本的な科目である日本語教授法Ⅰと日本語教授法Ⅱをすでに履修済みの学生のための受講を認めます。

【授業計画】

- ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見て比較検討します。
- ・模擬授業の準備段階として、基本的な教授項目をどのように導入するか、またそのための教案をどのように作成するかを考えます。
- ・グループ単位（4～5名）で実際の授業を組み立て、模擬授業（1回20分程度を異なる教授法に基づいて2回）として発表します。
- ・実際の日本語授業（学内）を見学し、レポートを作成したり、夏期・春期休暇中に学外機関（日本国内および海外の提携大学）での教育実習に参加します（希望者のみ）。

【成績評価の方法】

- ・ノートに毎回の授業をまとめ、指定された課題もそこに記入し、それを適宜提出することで出席状況と授業の理解度を確認します。
- ・グループ単位で行う模擬授業は学生間の相互評価を行います（各人が評価表に記入し、コメントはすべてフィードバックします）。
- ・日本語教師資格関連の最終段階の授業なので、基本的には全回出席が求められます。

【テキスト】

実習形態の授業なので、指定する教科書はありません。使用する資料については必要に応じて教員が準備、配布します。

【参考文献】

- ・『教え方の基本』（丸山敬介 京都日本語学校）
- ・『日本語教育論集』（吉田弥寿夫編 学習研究社）
- ・『実践日本語教授法』（名柄迪監修 中西家栄子他 バベルプレス）
- ・『子供のための日本語教育』（山本紀美子他 アルク）
- ・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』（川口義一&横溝紳一郎 ひつじ書房）
- ・『コミュニケーションのための日本語教育文法』（野田尚史 くろしお出版）

| 科 目 名 | | | |
|--------|-------|-----|---------|
| 日本語文法論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 有 川 康 二 |

【講義概要・学習目標】

本講義は、日本語学概論（春学期集中）と内容的に継続する。ヒト脳の自然言語計算システムという複雑系で処理される3つの素性（音素性、意味素性、構造素性）のうち、構造素性と意味素性に焦点をあてて、単文、複文の構造と意味について考える。日本語の母語話者の文の容認可能性反応を使用し（思考実験）、自然言語計算システムに関する仮説の構築と検証（それに伴う仮説の修正、破棄）を行う。自然が創造したヒト脳の計算システムの法則（自然法則）やメカニズムを、日本語という自然言語の観察を通して吟味する。日本語学概論、英語統語論、言語習得論、数学、生物学、自然科学関連の講義は、内容的に関連するので、出来る限り、受講、聴講、自習することが望ましい。

【授業計画】

- (1) 単文の構造と意味の問題。
- (2) 複文の構造と意味の問題。

【成績評価の方法】

出席・筆記試験

【テキスト】

寺村秀夫（1978）『日本語の文法（上）』国立国語研究所
 寺村秀夫（1981）『日本語の文法（下）』国立国語研究所
 有川康二（2005）『日本語学と生物言語学の対話』（教科書用自費出版）

【参考文献】

畠山雄二（2004）『情報科学のための理論言語学入門－脳内文法のしくみを探る』丸善
 野村奉幸（2005）『プラトンと考えることばの獲得－成長する文法・計算する言語器官』くろしお出版

【備考】

<02～05生>
 E・SS・SW・B・J生は、日本語教員資格科目（随意）として履修

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 日本史 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 4単位 | 三 宅 正 彦 |

【講義概要・学習目標】

日本近代の思想的特質を各分野から追求する。基本史料の読解を重視する。

【授業計画】

- (1) 近代日本のアジア観
- (2) 近代日本の家観
- (3) 近代日本における天皇観の対立
- (4) 近代日本における革命観の対立

【成績評価の方法】

期末試験。講義に欠かさず出席して内容の理解に努めれば、単位取得は容易である。欠席したり、授業に集中しなければ、単位取得は困難である。

【テキスト】

資料を配付する。ただし、配付時に出席していた人に1回限りで配付する。そのとき欠席した人に追加配付はしない。資料をなくしたり、持参するのを忘れた人に再配付することはしない。毎時資料を持参しなければ、授業理解は困難である。

【参考文献】

授業中にそのつど紹介する。

な
行

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 日本史 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 春学期集中 | 4単位 | 寺 木 伸 明 |

【講義概要・学習目標】

本講義は、教職科目として開講されたものを共通自由科目としても履修できるようにしたものである。したがって、日本史学習の目的、日本史学習指導のための基礎知識、指導方法などについて教授することになる。教職志望者以外の学生は、その点を十分に承知したうえで、履修されたい。上記のことを講義しつつ、各時代ごとに、いくつかの柱を立てて重点的に述べていくことになる。その際、民衆の視点、とくに差別され迫害されてきた民衆の視点で従来の日本史を見直していくよう努力したい。そのことにより、いままで隠されてきた真実や埋もれてきた史実が少しずつ明らかになっていくと思う。歴史とは、単に過去のことを興味本位に断片的に知ることではなく、現在を理解するためにこそ過去の事柄を系統的に理解し、研究することである。日本史を大きな流れにおいて理解できるように工夫をしていきたい。なお、適宜、史料を印刷して配布し、その読解をしていくことになるので、日本史に強い関心と勉学意欲をもち、努力しないと理解は困難になる。そのことも十分承知されたい。

【授業計画】

- 1 日本史学習の目的
- 2 日本史の見方と指導方法および留意点
- 3 人類と日本人の起源
- 4 縄文・弥生時代の社会と文化
- 5 古代社会と身分制度およびケガレ概念
- 6 中世社会と差別民の文化
- 7 近世社会と身分制度および被差別民の生活
- 8 近現代への展望
- 9 日本史学習指導の現状と課題

なお、私語は厳禁。私語した場合は、直ちに退室を命じる。また、15分たってからの入室は、正当な理由がないかぎり、認めない。

【成績評価の方法】

毎回、出席をとり、出席カードに講義の感想・意見・疑問を書いて提出してもらう。学年末に実施する試験の成績を基本に出席点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、史料を配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

| 科 目 名 | | | |
|-----------------|------|-----|---------|
| 日本文化研究－日本思想の諸問題 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 三 宅 正 彦 |

【講義概要・学習目標】

日本歴史の古代から現代への展開を身分制とくに良賤制の変遷を中核として追究する。基本史料の読解を重視する。

【授業計画】

- (1) 人権と身分制
- (2) 世界史上の良賤制
- (3) 古代律令制国家と身分制
- (4) 中世荘園制国家と身分制
- (5) 近世幕藩制国家と身分制
- (6) 近代天皇制国家と身分制
- (7) 現代民主制国家と身分制

【成績評価の方法】

期末試験。講義に欠かさず出席して内容の理解に努めれば、単位取得は容易である。欠席したり、授業に集中できなければ、単位取得は困難である。

【テキスト】

資料を配付する。ただし、配付時に出席していた人に1回限りで配付する。そのとき欠席していた人に追加配付はしない。資料を持参するのを忘れて、なくしたりした人に再配付することもしない。毎時資料を持参しなければ、授業理解は困難である。

【参考文献】

授業中にそのつど紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|------------------|-------|-----|---------|
| 日本文化研究－柳田国男を再読する | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 梅 山 秀 幸 |

【講義概要・学習目標】

今世紀初頭、柳田国男は二度にわたって、かなりの長期の岐阜県の調査旅行を行っており、その成果は『山の人生』および『毛坊主考』といった初期の作品の中に取り入れられている。その足跡をたどりつつ、柳田国男の叙述を読みなおすとき、かなりの「創作」といっていいものが目立つ。たとえば、『山の人生』の冒頭の「西美濃」の山奥の子ども殺しは、その実行者の後年の告白がたまたま残されていて、それと付き合わせると、実に出鱈目である。また、飛騨白川郷での農家の軒先での見聞かあら、『毛坊主考』は書き始められ、浄土真宗の揺籃期について論じているのだが、白川郷は江戸初期に高山に移った照連寺が勢威をふるった真宗王国であった。柳田国男の「勇み足」の意味を考えながら、山国の人々の精神生活に思いを致したい。合わせて、柳田のさまざまな方面での業績を通して、その思想の現代にもつ意味を考えてみたい。

【授業計画】

- 1、『秋風帖』を読む
- 2、『越前美濃紀行』を読む
- 3、『山の人生』を読む
- 4、「新四郎さの告白」
- 5、『毛坊主考』
- 6、一向一揆および真宗の発展について
- 7、飛騨というところ
- 8、飛騨の真宗
- 9、ネブタ考
- 10、人柱について

【成績評価の方法】

期末試験による。出席も考慮します。

【テキスト】

なし

【参考文献】

『柳田国男全集』（ちくま文庫）

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 日本文化史 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 梅 山 秀 幸 |

【講義概要・学習目標】

桃山学院の近くの久保惣美術館には重要文化財の『伊勢物語絵巻』がある。その『伊勢物語』の中で高らかに称えられる「みやび」の美意識は「ひなび」との対比の上で成り立った美意識である。端的に言えば、それは都風の恋愛作法を意味するが、それが洗練されて『源氏物語』の「もののあはれ」となり、さらに深まり、爛熟して行き場のなくなって退廃していく姿を『問はずがたり』の中に見ていきたい。隣の朝鮮王朝にも宮廷文学はあったが、それは恋愛あるいは姦通を扱わない。主題は党争であり、「恨（ハン）」の世界が繰り広げられる。朝鮮の宮廷物語をも紹介しながら、日本の恋愛の文化的な意義を考えてみたい。

【授業計画】

- 1、久保惣美術館の『伊勢物語絵巻』
- 2、「みやび」と「ひなび」
- 3、宮廷風恋愛 (amour courtois)
- 4、『源氏物語』と姦通
- 5、「もののあはれ」
- 6、『大鏡』の「やまとだましり」
- 7、『問はずがたり』のモラルと関東武士の「妻敵討ち」
- 8、朝鮮宮廷小説
- 9、「恨（ハン）」と「もののあはれ」

【成績評価の方法】

期末試験による。出席も考慮します。

【テキスト】

なし

【参考文献】

授業中に指示します。

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、LE・LI生対象外
LE・LI生は学科教育科目

な
行

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|-------|
| 日本文化論 [02生～] | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 深 澤 徹 |

【講義概要・学習目標】

ナショナリズムには様々な側面から論じられるが、戦後の日本においては否定的に扱われる傾向が強い。そのもつともソフトな形態として「文化ナショナリズム」があるのだが、近代国民国家においては、日本に限らず、文化を通してナショナリズムを喚起し、補強していくということがなされる。本講義では、その「文化としての日本主義」について、様々な歴史過程のなかで、それが果たした役割について論ずる。扱う対象は、主に近代以降の「日本文化」についての様々な言説（いわゆる日本文化論）だが、前近代（江戸・中世・古代）へと適宜時代を遡らせて、世界でもまれに見る完璧な「国民国家」が創出されていく過程をたどることになるだろう。

【授業計画】

1. 『菊と刀』の前と後
2. オリエンタリズムについて
3. 対外関係の中での自己アイデンティティの創出過程(古代編)
4. 対外関係の中での自己アイデンティティの創出過程(中世編)
5. 戦後民主主義体制化の日本の自己アイデンティティ

【成績評価の方法】

2度行う試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。

【テキスト】

深沢徹著 『自己言及テキストの系譜学』（森話社・2002）

【参考文献】

南博著『日本人論 明治から今日まで』（岩波・1994）青木保『日本文化論の変容』（中央公論・1990）吉野耕作『文化ナショナリズムの社会学』（名大出版・1997）

【備考】

E・SW・B・J生は、日本語教員資格科目（随意）として履修

| 科 目 名 | | | |
|--------|------|-----|---------|
| 人間工学概論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 三 戸 秀 樹 |

【講義概要・学習目標】

人間と機械のかかわりは古い。この人間と機械の関係から発生した人間工学に関する基礎的理解を深め、今後の人間と機械の関係のあり方について言及する。近年の機械系、とくにコンピュータリゼーションの進歩にともなう、人間らしい“人間-機械”の関係が実現しつつある反面、労働場面では、非人間的な“人間?機械”の関係が観察される。この非人間的側面は、かつて労働にあった「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている。さらに、一部では産業ストレス時代ともいわれ、真に人間中心的な視点に基づいた人間工学導入が緊要である。単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく、働く人々の個々のおかれている状況・状態にたえず疑問を発しながら、「どうしてそうなのか」「どうすれば良くなるのか」を、人間工学的に考える姿勢を重視する。人間を中心にすえた視点から人間工学の基本を学びとって欲しい。なお、文科系受講生へ配慮して、教式をほとんど用いないで講じる工夫をしている。

【授業計画】

<前 期>

- (1) はじめに
人間工学の定義、労働態様の変化、
- (2) 人間特性
生体次元、感覚入力系、覚醒水準、生体リズム、反応特性、性差、疲労、蓄積性疲労、

<後 期>

- (3) 人間と機械
マン・マシン・インタフェース、頸肩腕障害、振動障害、VDT作業、テクノストレス、
- (4) 応用人間工学
立ち作業、障害者、二次的障害、高齢化、安全人間工学、交通科学、福祉人間工学、
- (5) 労働の快適化
労働の人間化、ゆとり、人間工学専門家資格、

【成績評価の方法】

テストとレポートを予定。

【テキスト】

テキストは使用しない。
プリントを配布します。

【参考文献】

労働と健康の科学研究会（編）「労働と健康の科学」（労働経済社）
三戸秀樹ほか（著）「安全の行動科学」（学文社）
千田忠男ほか（著）「労働科学論入門」（北大路書房）
井上正康、倉恒弘彦、渡辺恭良（編）「疲労の科学」（講談社）

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 人間発達論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 安 原 佳 子 |

【講義概要・学習目標】

人は、誕生してから自分の周りの環境との相互作用によって育っていく。以前は「発達」というと、乳幼児期から青年期までに焦点があてられていたが、現在は生涯発達という観点から、人が生まれてから（胎児期から）なくなるまでの変化として捉えられている。

身体的成長や運動能力、言語、認知、社会性など精神活動など、一口に発達といっても幅広い領域にまたがり、また、家族、社会、文化、時代など、多くの環境要因によっても変わってくる。そのため、これまで様々な視点から発達理論が唱えられてきた。

本講義では、発達理論を概観し、ライフステージにおける課題をみていき、人間理解を深めたい。さらに、福祉等の対人援助の仕事の視野にいれ、発達の支援について応用行動分析の立場から触れる。

【授業計画】

- 1 発達とは
 - ・人間の発達の概念
- 2 発達理論の理解
 - ・各理論の紹介と整理
- 3 発達における課題について
- 4 発達の支援
 - ・応用行動分析の立場から

【成績評価の方法】

出席状況、授業時の課題、レポート、学期末試験により、総合的に判断する。

【テキスト】

授業時に提示する

【参考文献】

授業時に提示する

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| ネットワーク実習 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 秋学期 | 2単位 | 中 崎 修 一 |

【講義概要・学習目標】

近年、ネットワーク技術の進歩やインターネット、イントラネットの普及により、コンピュータとネットワークは切り離せないものとなった。また、インターネットの利用が普及する中、膨大な情報の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本演習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの構築と利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、特にセキュリティ面を重視しての現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を実習によって目指す。その利用の中で、ただ単に利用するだけではなく、常に問題意識を持ってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

【授業計画】

1. コンピュータ・ネットワークとは
2. LAN、インターネット、ネットワークの構築
3. ネットワークを活用した情報収集
4. Web検索とHTML
5. ネットワーク技術の基礎
6. 通信プロトコル
7. インターネット詳細
8. 様々なネットワーク上のサービス
9. ネットワーク・セキュリティ
10. SGML、XML、Java
11. ネットワーク運用管理
12. 現在のネットワークの問題点、解決策
13. 今後のネットワーク事情
14. まとめ

【成績評価の方法】

課題提出、出席から総合的に判断する

【テキスト】

指定無し（Webにて資料提示）

【参考文献】

長坂康史著『情報通信ネットワークとLAN』（共立出版）

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| ネットワーク実習 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 秋学期 | 2単位 | 初 瀬 慎 一 |

【講義概要・学習目標】

近年、ネットワーク技術の進歩や、インターネット、イントラネットの普及によりコンピュータとネットワークは切り離せない物となった。また、インターネットの普及する中、膨大な資料の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本実習では、コンピュータネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、現状の問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を目指す。その利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識をもってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

【授業計画】

1. コンピュータネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワークを活用した情報収集
4. ネットワーク技術の基礎
5. 通信プロトコル
6. インターネット詳細
7. さまざまなネットワーク上のサービス
8. HTML、XML、JAVA
9. ネットワークの安全性
10. 現在のネットワークの問題点、解決策、セキュリティ
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

【成績評価の方法】

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

【テキスト】

資料は講義時に配布する。

【参考文献】

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| ネットワーク論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 春学期 | 2単位 | 中 崎 修 一 |

【講義概要・学習目標】

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。本講義では、ネットワーク関連技術、構方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【授業計画】

1. 現代社会とネットワーク
2. 情報通信ネットワークとは
3. インターネット
4. ネットワーク基礎知識
5. TCP/IP
6. クライアントサーバシステム
7. ネットワーク構成
8. WWWとその活用
9. 様々なネットワーク上のサービス
10. 安全性と信頼性
11. ネットワークと犯罪
12. ネットワーク構築手法
13. 今後のネットワーク事情
14. まとめ

【成績評価の方法】

レポートと試験にて評価する。出席についても考慮するが、出席点としては扱わない。

【テキスト】

『情報通信ネットワークとLAN』，長坂康史著，共立出版，ISBN 4-320-02966-6

【参考文献】

随時提示

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| ネットワーク論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 春学期 | 2単位 | 初 瀬 慎 一 |

【講義概要・学習目標】

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴って、これらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に、現在及び今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらに新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【授業計画】

1. 情報通信ネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワーク基礎知識
4. クライアントサーバシステム
5. ネットワーク構成詳細
6. WWWとその活用
7. 安全性と信頼性
8. さまざまなサービス
9. ネットワーク構築手法
10. 現代社会とネットワーク
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

【成績評価の方法】

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

【テキスト】

資料は講義時に配布する。

【参考文献】

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 農業経済論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 浦 出 俊 和 |

【講義概要・学習目標】

GATT体制からWTO体制へ移り、農産物貿易の自由化が進展しているが、わが国は、世界の中でも農産物輸入大国であり、年々自給率が低下している状況にある。WTO体制の下で、わが国はこのまま農産物輸入の拡大を進めてよいのであろうか？それとも農業保護をすべきなのであろうか？

本講義では、農業の特質を理解するとともに、WTO体制下における農業問題を取り上げ、わが国の農業政策と問題について講義する。

農業経済論では、若干マイクロ経済学の理論を援用するが、マイクロ経済学の基礎については、講義の中で解説しながら進める予定であるので、マイクロ経済学を履修していなくても歓迎する。

本講義が目標とすることは、各自が日本農業の抱える問題を正しく認識し、その将来方向について自分の考えを述べるようになることである。

【授業計画】

1. 世界の人口と食糧問題
2. 農業の特質
3. 農産物貿易問題
4. 世界の農業問題
5. 経済発展と食料需給
6. 農産物価格形成と農産物市場
7. 途上国の農業問題
8. 先進国の農業問題
9. 農業政策の諸問題
10. WTO農業協定の意義と評価
11. 日本の農業・農村の問題と農業政策
12. 農業と環境

【成績評価の方法】

原則として、学年度末試験の成績によって評価する。ただし、受講生数が適度な限度数内であれば、前期末に中間試験を行い、成績評価に加味する予定。

【テキスト】

特に指定しないが、講義概要や講義資料は、下記を参照のこと。
<http://rio.andrew.ac.jp/~urade/agri-index.html>

【参考文献】

- 1) 速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店）
- 2) 荏開津典生著『農業経済学』（岩波書店）
- 3) 矢口芳生著『WTO体制下の日本農業』（日本経済評論社）

な
行

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|-------|
| 博物館概論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 井 上 敏 |

【講義概要・学習目標】

学芸員課程の基幹科目である。はじめの講義で学芸員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的は何かについて、ガイダンスを行う。この講義では博物館に関する最も基礎的な知識を学ぶ。また本講義においては学生諸君に博物館に行ってもらい、見学レポートを4月に1本、5月に1本の計2本書いて提出してもらう。その締め切りはそれぞれ4月末、5月末の予定である。見学レポートを提出しなかった者は本講義を放棄したものとみなすので、十分注意すること。

【授業計画】

1. 博物館の目的と機能
2. 博物館の歴史
3. 博物館の現状
4. 博物館倫理
5. 博物館関係法規
6. 生涯学習と博物館

【成績評価の方法】

出席を含む受講態度とレポート、及び試験で評価する。

【テキスト】

広瀬隆人（編）『博物館学基礎資料』樹村房（2001）

【参考文献】

倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版（1997） その他適宜指示する。

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|-------|
| 博物館学各論Ⅰ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 井 上 敏 |

【講義概要・学習目標】

博物館はその数の増大と共に社会からより質の高い役割を要求されてきている。そのような要求に応えるべく、1997年に博物館法施行規則が改正され、これまで「博物館学」（4単位）しか設けられていなかった博物館学関係科目を「博物館概論」（2単位）、「博物館資料論」（2単位）、「博物館情報論」（1単位）、「博物館経営論」（1単位）に改めた。

本講義はその中の「博物館資料論」にあたる。「博物館資料論」では学芸員として必要な博物館資料の収集・保管・展示に関する基礎知識を身につけると共に博物館における資料保存の重要性とその難しさについて理解することを目指す。尚、講義はチーフの井上以外に下記の講師があたる。

- ・ 鮫島泰平（乃村工藝社）
- ・ 岡本篤志（大手前大学）
- ・ 宇田川滋正（京都造形芸術大学）

【授業計画】

1. 博物館資料の基礎知識（井上）
2. 博物館展示論（鮫島）
3. 博物館資料論（岡本）
4. 保存科学概論（宇田川）
5. 博物館における危機管理（井上）

【成績評価の方法】

原則として受講態度を含む出席点と試験。変更がある場合は学生に告知する。

【テキスト】

『博物館資料論』石森秀三（財団法人 放送大学教育振興会）

【参考文献】

『文化財のための保存科学』京都造形芸術大学 編（角川書店）

【備考】

インテグレーション科目

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|-------|
| 博物館学各論Ⅱ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 井 上 敏 |

【講義概要・学習目標】

博物館はその数の増大と共に社会からより質の高い役割を要求されてきている。そのような要求に応えるべく、1997年に博物館法施行規則が改正され、これまで「博物館学」（4単位）しか設けられていなかった博物館学関係科目を「博物館概論」（2単位）、「博物館資料論」（2単位）、「博物館情報論」（1単位）、「博物館経営論」（1単位）に改めた。

本講義はその中の「博物館情報論」と「博物館経営論」にあたる。

「博物館情報論」では新しい博物館像が模索される中で、IT分野の発展目覚ましい技術を博物館の活動に取り入れることの必要性和、その活用についての理解を図る。

「博物館経営論」ではミュージアム・マネジメントという新しい学問分野の成果を取り入れながら、単なる博物館「運営」ではなく、より積極的な博物館「経営」ができる人材養成を目指す。また昨今、博物館界で話題として取り上げられる「独立行政法人制度」や「PFI」、「指定管理者制度」等にも触れ、博物館における制度の重要性と「経営」の難しさについての理解を図る。

尚、講義は井上以外に下記の講師があたる。

- ・小原千夏（ハンズオンプランニング）
- ・山根啓史（NTT西日本）

【授業計画】

1. 博物館行財政論（井上）
2. 博物館経営論（井上）
3. 博物館教育論（小原）
4. 博物館情報論（山根）

【成績評価の方法】

原則として受講態度を含む出席点と試験。変更がある場合は学生に告知する。

【テキスト】

『博物館経営・情報論』 石森秀三（財団法人 放送大学教育振興会）

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

インテグレーション科目

| 科 目 名 | | | |
|--------|------|-----|-------|
| 博物館実習Ⅰ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 8月集中 | 1単位 | 井 上 敏 |

【講義概要・学習目標】

博物館資料の取り扱いや展示に関する基本的なことを学内、学外の施設で実習する。分野毎に専門の教員が担当して指導する。予定している実習は「資料の取材と作成」「展示企画の立て方」「土器の復元」、「考古遺物の実測」、「文書資料の取り扱い」等である。実習の内容については追って発表するので、注意すること。

【授業計画】

8月初旬に5日間実施する予定である。詳細な日程については追って発表するので、注意すること。

【成績評価の方法】

全出席が原則である。主に実習ノートによって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

実習中に資料を配布する。

【備考】

インテグレーション科目

は
行

| 科 目 名 | | | |
|---------------|------|-----|-------|
| 博物館実習Ⅱ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 1単位 | 井 上 敏 |

【講義概要・学習目標】

多様な博物館の現状を理解するために、各種の博物館において見学研修を行う。専任教員が交代で引率し、出席の確認を取る。土曜、日曜または休暇中に実施する。総計で12回実施するが、そのうち4回は両コース共通、8回は産業文化、東洋文化のコース別にそれぞれ4回である。尚、自分のコース外の館も見学することが望ましいことは言うまでもない。

【授業計画】

日程の詳細は追って発表するが、予定している博物館は下記の通りである。

両コース共通：和泉市いずみの国歴史館、大阪歴史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、国立民族学博物館。

産業文化コース：交通科学博物館、大阪ガス・ガス科学館、UCCコーヒー博物館、なにわの海の時空館。

東洋文化コース：和泉市久保惣記念美術館、堺市博物館、大阪城天守閣、大阪府立弥生文化博物館

【成績評価の方法】

主に実習ノートによって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

なし。

【備考】

インテグレーション科目

| 科 目 名 | | | |
|---------------|------|-----|-------|
| 博物館実習Ⅲ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 1単位 | 井 上 敏 |

【講義概要・学習目標】

実習先の博物館で5日間から1週間程度の館務実習を行う。実習先としては、高野山霊宝館、和泉市いずみの国歴史館、トヨタ博物館、大阪ガス・ガス科学館、なにわの海の時空館、等を予定している。

【授業計画】

4月のガイダンス時に、各人の実習館を決定する。実習は多くの場合、夏期休暇中に行われるが具体的日時や実習内容は各博物館によって大幅に異なっており、同じ博物館でも年によって変更がある。

※各実習館への交通費・宿泊費等は自己負担であるので、注意すること。

【成績評価の方法】

実習館の評価と実習ノートによって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

なし。

【備考】

インテグレーション科目

| 科 目 名 | | | |
|----------------|-------|-----|---------|
| 比較経済体制論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 上 野 勝 男 |

【講義概要・学習目標】

「ソ連(ロシア)の経済ってどんな特徴あるの?」ときかれたら、少し勉強したひとなら、旧ソ連では企業活動の自由がなく命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地がなく商品はいつも不足していた。こうした「社会主義計画経済」が行き詰まってソ連は崩壊に至り、いまでは「体制転換」という「市場経済」=資本主義のシステムへの移行がすすんでいる、と説明するかもしれない。

たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのは一見わかりやすい。でも、景気回復というが、派遣やフリーターは減らず、年金や生活保障の先行きも不透明、「下流社会」のように貧富の格差が拡大するという状況にある私たちの国日本も「市場経済」=資本主義だと思うと、少し考え込んでしまいませんか。「はたしてこんな矛盾を抱えた資本主義が旧ソ連の転換の模範になるのか」と。それに、「社会主義は、本来、資本主義の矛盾を克服した体制のはずなのに、なぜソ連があんなふうにも崩壊したのか」「崩壊したのは社会主義だったからなのか」等々。この講義では、こうした疑問をじっくり考えることを目標にして、(1) 社会主義とは本来どのようなものか、(2) わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、(3) 旧ソ連の経済体制をどう考えるか、(4) ロシア・東欧諸国で進行する「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。

【授業計画】

序 論 「比較経済体制論」とは?

第Ⅰ部 社会主義とは何か?

1. 資本主義の本性とその矛盾
2. 社会主義・共産主義の特徴

第Ⅱ部 ソ連経済史概説—「社会主義経済」だったのか?—

3. 十月革命からネップ(新経済政策)の試みへ
4. ソ連型経済制度の成立
5. ソ連経済の崩壊の論理

第Ⅲ部 「体制転換」の虚像と実態

6. 「体制転換」の十余年
7. 未来はどこに

【成績評価の方法】

講義への出席をとくに重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。

【テキスト】

使用しません。プリント配布に注意してください。また、随時参考文献も指示します。

【備考】

<02~05生>

共通自由科目として、E生対象外

E生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|---------------|-------|-----|---------|
| 比較文化概論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 国 松 夏 紀 |

【講義概要・学習目標】

「比較文化」の前提は、複数の「文化」の存在である。少なくとも「自文化」と「異文化」の二つが無ければ「比較」することは出来ない。

一方において、そもそも「文化」とは何か?その検討から始めなければならない。そこから複数の「文化」の差異性の根拠も明らかになるだろう。その上で、「比較文化」の方法論と「比較文化」の諸分野を検討する。

他方、黒澤明の映画作品という具体例を「比較文化」的に検討し、上記議論の検証・補強をも試みる。

さらに、両方向をつなぐものとして、様々な外国旅行記をも異文化体験による「比較文化」として視野に入れる。

【講義計画】

- I. 「文化」とは何か?
- II. 「比較文化」の方法
- III. 「比較文化」の諸分野
- IV. 「比較文化」の旅
- V. 黒澤明映画作品とロシア

【成績評価の方法】

授業計画のI~Vの各項目に関して、レポート提出。学期末の最終レポートは、各自の関心によって具体的にテーマ設定された「比較文化」研究の概要。出席を重視し、上記合計6編のレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献】

柳父章著『<一語の辞典>文化』(三省堂刊)

網野善彦著『東と西の語る日本の歴史』(講談社学術文庫)

佐伯彰一・芳賀徹編『外国人による日本論の名著』(中公新書)

『講座・比較文化』全8巻(研究社刊)

中野毅編『比較文化とは何か 研究方法と課題』(創価大学比較文化研究所叢書Vol. 1 第三文明社)

は
行

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 比較文学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 岩 男 久仁子 |

【講義概要・学習目標】

西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物（特に日本のイソップ寓話）との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。

【講義計画】

- ・「イソップ寓話・伝記」と伝承系統
- ・ギリシアの作家とイソップ寓話
- ・近世以後のイソップ寓話
- ・日本に伝播したイソップ寓話
- ・古代ギリシアの世界観

以上のテーマを数回にわたって講義する。

【成績評価の方法】

レポート、学期末テスト、出席状況で評価する。また、毎回質問意見などを出席カードに書く。これも評価の対象である。

【参考文献】

- 『イソップ寓話の世界』 中務哲郎著 ちくま新書 600円
『イソップ寓話集』 中務哲郎訳 岩波文庫 700円

| 科 目 名 | | | |
|---------------------|-------|-----|-------------------------------------|
| 比較文化研究－アウトロー法の外で生死す | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | フィリップ ビリングズリー Philip Billingsley |

【講義概要・学習目標】

まず注意しておくが、この講義は英語で行われる。もちろん、どの受講生もその気になれば聞き取れるよう努力はするけれど、それにしてもほかの講義と比べては間違いなく難しいし、かなりの労力を要する。その労力が無駄にならないようにするのはこちらの努めだが、やはり、英語聞き取りに身を入れる気のない学生にはこの講義は向かないだろう（詳しくは後ほど...）。

「歴史」には、曲と同じようにいくつものバージョンがある。学校で習うのは「表街道」で、王様とその周りの人々、権力をうまく握った人々、軍事で群を抜いた人々など登場する場所で、私たちのような「凡人」は主人公ではない。幸いにその「表街道」を裏返せばもうひとつの世界、つまり歴史の「裏街道」もある。「表街道」が法を執行する側ならば「裏街道」はその法の「恵み」（「お叱り」）を受ける側になる。しかし、フランス革命当時イギリスの詩人ブレイクが言ったように、同一法律で狂猛なライオンも家畜の牝牛も縛りつけようとするのは無理な話で、結局は法に引かかった多くの「牝牛」（つまり無力な凡人）は「草に落ちて」アウトロー（匪賊）になる以外に道はなかった。講義では歴史や文学に登場する「アウトロー」に焦点を当て、その言葉の本当の意味を探る。具体例は主に中国から探るけれど、日本や欧米のアウトロー伝統も紹介し、講義を通して歴史を見直すきっかけを提供する。目からうろこが落ちる話を期待してください。

しかしながら受講生にとって何よりもネックなのは、この講義は英語で行うことだ。多くの人にとって初めての体験だろう。「難しい!」、「無理!」って嘆き声が今にも聞こえてきている。しかし、通じない講義はさまにならないので、聞き取りやすいようにゆっくり話したり、テープに吹き込んだり、キーワードを毎回配ったりなどしてありとあらゆる工夫をする。英語のヒアリングを磨きたい人はどしどし受講してください。ただ、毎回出席が要求されるし、小テストも期末テストもあり、宿題も出る。その代わり、聞き取りの力が確実に上達することと、今まで想像もしなかった話をたくさん聞けることを約束する。

【授業計画】

「アウトロー」らしく、気が向くままに進めていく。クラスの後半は関連する映画、音楽、ドキュメンタリーなども紹介する。

【成績評価の方法】

英語ヒアリング能力を磨くための授業だから毎回出席が大前提。そのほかに宿題も小テストもあり、期末にもテストを行う。

【テキスト】

なし

【参考文献】

そのつど紹介する。キーワードやイラストを含んだプリントを毎回配る。

【備考】

英語による授業です

| 科 目 名 | | | |
|-------------------|-------|-----|-------|
| 比較文化研究－世界の多様なメディア | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 小 池 誠 |

【講義概要・学習目標】

この講義の目的は、アジアを中心に世界の多様なメディアを取り上げて、ふだん身近に接している日本のメディアとの比較を通して、世界のメディアについて学ぶことである。とくにメディアとそれを創り出す社会・文化との関係について考えたい。また、グローバル化が進む現代世界におけるメディアの変容についても考えてみたい。

この授業では、ふだんにすることのない海外の映画（インド映画・インドネシア映画など）とテレビ番組（アメリカとインドネシア、カタールなど）だけでなく、身近な日本の海外文化紹介番組も取り上げて、さまざまな角度からメディアにアプローチしたい。

テレビ番組と映画をただぼんやりと見るのではなく、それぞれの歴史的・社会的・文化的な背景を考えながら、メディアを批判的・分析的に見る目、すなわちメディア・リテラシーを受講者は身につけてもらいたい。

【授業計画】

- 1 メディア・リテラシーとは何か？
- 2 メディアと戦争：アメリカとアラブのテレビ・ニュース
- 3 異文化の表象：日本のメディアは「海外」をどのように描くか？
- 4 メディアのグローバル化：日本製アニメの海外進出
- 5 映画の比較研究：インド映画はハリウッド映画とどう違うか？
- 6 世界のメロドラマ：韓国とインドネシアのドラマ
- 7 世界のテレビ放送
- 8 まとめ

【成績評価の方法】

期末試験の素点（約70%）をもとにして成績をつける。また、講義終了時に提出する出席カード（コメントを書く）にもとづいて出席点（約30%）をつけ、それを加味して総合評価を決める。

【テキスト】

なし

【参考文献】

講義のなかで必要に応じて紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|--------------------|-------|-----|-------------------------------------|
| 比較文化研究－世界の文化思いつくまに | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | フィリップ ビリングズリー Philip Billingsley |

【講義概要・学習目標】

まず注意しておくが、この講義は英語で行われる。もちろん、どの受講生もその気になれば聞き取れるよう努力はするけれど、それにしてもほかの講義と比べては間違いなく難しいし、かなりの労力を要する。その労力が無駄にならないようにするのはこちらの努めだが、やはり、英語聞き取りに身を入れる気のない学生にはこの講義は向かないだろう（詳しくは後ほど...）。

私は旅が好きだ。そして、旅先の国々で現地の文化に関わる話を求めることも最高に楽しいのだ。この4-5年間訪れた国は（日本を除いて）エジプト、ケニア、韓国、中国、ニュージーランド、とオーストラリア。講義ではそれぞれの国の「土産話」などを紹介し比較し、そこから学べることについて一緒に考えていきたい。

違う文化を見つめることによって、自分の文化が始めて見えてくることがある。さまざまな「新発見」によってそれまでの「常識」が揺れ動き、いろいろな「当たり前」なことが問われるようになる。旅から得られるこのような楽しみはまた、人間にとってきわめて大事なことでもある。頑なにならないで、自分自身をリフレッシュしていくための大前提、それが旅だと言えるぐらい。もちろん、未知の文化についていろいろなことを憶える楽しさも忘れてはならない。この講義では「目からうろこが落ちる」話をたくさん紹介すると同時に、「白い砂漠」（エジプト）や「黄土高原」（中国）での体験を比較することによって受講生にも「楽しい体験」を差し上げたい。

しかしながら受講生にとって何よりもネックなのは、この講義は英語で行うことだ。多くの人にとって初めての体験だろう。「難しい!」、「無理!」って嘆き声が今にも聞こえてきている。しかし、通じない講義はさまにならないので、聞き取りやすいようにゆっくり話したり、テープに吹き込んだり、キーワードを毎回配ったりなどしてありとあらゆる工夫をする。英語のヒアリングを磨きたい人はどしどし受講してください。ただ、毎回出席が要求されるし、小テストも期末テストもあり、宿題も出る。その代わりに、聞き取りの力が確実に上達することと、今まで想像もしなかった話をたくさん聞けることを約束する。

【授業計画】

旅先の国々の文化を紹介しながら、映画を観たり、現地の音楽を聴いたり、その国（地域）言葉を疲労したりして、「勉強って、実は楽しいもんだったのね」という認識を植えつけたい。

【成績評価の方法】

英語ヒアリング能力を磨くための授業だから毎回出席が大前提。そのほかに宿題も小テストもあり、期末にもテストを行う。

【テキスト】

なし

【参考文献】

そのつど紹介する。キーワードやイラストを含んだプリントを毎回配る

【備考】

英語による授業です

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 比較文明論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 串 田 久 治 |

【講義概要・学習目標】

二十世紀後半、西欧文明を見直して非西欧文明の価値を組み込む新しい関係概念と望ましい方向性を探求しようと、ヨーロッパに「比較文明」が誕生しました。知の総合を旨とする新しい学問です。

一方、西欧文明の普遍的価値を信じていたアジア諸国は、それが必ずしも世界に普遍的な価値ではないことを知り、ようやくアジア独自の文明・文化の価値観に目を向け始めました。そして、2001年、国連はこの年を「文明間の対話年」とし、二十一世紀の第一ページを飾ったのです。

ところが現実世界は今なお「文明間の対立」が深く、それは今後ますます激化するであろうと予測する研究者もいます。

本講義は世界の文明・文化を単に「比較」して「普遍的な文化」を求めるものではありません。古代中国文明が提起する様々な問題（講義で紹介する）を足がかりにして、「人間の普遍性」を共に考える授業です。したがって、ただ聞いているだけの、黒板との一方通行の講義ではなく、学生諸君のプレゼンテーションとディスカッションなどによって、学生諸君が主体となる授業です。

【授業計画】

第一部 比較文明序説

1. The Perfect European should be……
2. 「スイカ」は何語？
3. 漢字の世界

第二部 文明の諸相

- 1 対の思考
- 2 理想的な生活
- 3 esprit エスプリ
- 4 言葉遊びの世界

第三部 「人間の普遍性」を求めて

- 1 価値観を疑うー「無用の用」
- 2 理念と現実
- 3 復讐の倫理
- 4 中華思想とユニラテラリズム

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【テキスト】

講義時に資料を配布する。

【参考文献】

KUSHIDA'S WEB SITE

<http://www1.odn.ne.jp/kushida>

- 今村仁司著『近代性の構造』（講談社選書メチエ）
 ユルゲン・ハーバーマース著『法と正義のディスクール』（未来社）
 青木保著『異文化理解』（岩波新書）
 青木保著『多文化世界』（岩波新書）
 藤原一著『デモクラシーの帝国』（岩波新書）
 ノーム・チョムスキー著『メディア・コントロール』（集英社新書）
 梅棹忠夫著『文明の生態史観』（中公文庫）
 森谷正規著『文明の技術史観』（中公新書）
 サミュエル・ハンチントン著『文明の衝突』（集英社）
 伊藤俊太郎『比較文明』（東京大学出版会）
 串田久治『天安門落書』（講談社現代新書）

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、LE・LI生対象外

LE・LI生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| ビジネス情報利用 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 02 | 春学期 | 2単位 | 榎 本 光 世 |

【講義概要・学習目標】

インターネットやワープロの普及によって職場でも家庭でもPCは日常的に利用され、必須の道具となった。本講は実習形式で行われ、初歩的なPCの扱い方からはじめ、中級レベルまでのスキルを得ることを目指す。

学習目標は、

1. Windowsやパソコンの基本的な操作を習得する。
 2. Internet Explorer、Word、Excel、PowerPointなどの一般的なアプリケーションの簡単な使用法を習得する。
- である。

【授業計画】

1. 講義概要
2. パソコンの仕組みとWindowsの使い方
3. Internet Explorerの簡単な使い方（その1）
4. Internet Explorerの簡単な使い方（その2）
5. Wordの基本（その1）
6. Wordの基本（その2）
7. Wordの基本（その2）
8. Excelの基本（その1）
9. Excelの基本（その2）
10. PowerPointの基本（その1）
11. PowerPointの基本（その2）

以上の内容は変更されることもある。

【成績評価の方法】

出席率、宿題の提出率、試験やレポートの成績、受講態度などによって総合的に評価する。

【テキスト】

桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』を毎時間必ず持ってくること。

【参考文献】

未定、開講時に指示する。

| 科 目 名 | | | |
|-----------------|------------|------------|---------|
| ビジネス情報利用 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 03 04 | 春学期 秋学期 | 2単位 2単位 | 大 嶋 耕 一 |

【講義概要・学習目標】

かつてマニアのおもちゃでしかなかったパソコンが、今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になった。この授業では、コンピュータを学習、研究の道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。

内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、データの加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。

なお、入門的な内容を基本として授業計画を立てている（下を参照）が、学生個々の学習履歴（例えば「ワープロは基本的な内容を習得している」など）に応じて、多少のアレンジはできるように配慮する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、テキストエディタを使ったキーボード操作
- 第2回 ファイルとフォルダの扱い、編集、クリップボードを利用した編集処理
- 第3回 ワープロ入門（1）・・・文書の書式設定と基本的な文字属性
- 第4回 Network入門（1）・・・LANとインターネット、E-mailの使い方
- 第5回 ワープロ入門（2）・・・作表、レイアウト、ビジネス文書
- 第6回 Network入門（2）・・・WWWの仕組み、WWWによる情報の検索
- 第7回 表計算入門（1）・・・文字・数値・式の入力、セルのコピー
- 第8回 表計算入門（2）・・・表の体裁を整える
- 第9回 グラフの作成、アプリケーションソフト間の連携
- 第10回 クリップボードの仕組みとその活用
- 第11回～ 総合演習

【成績評価の方法】

出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する

【テキスト】

必要な資料は、授業時にプリントで配布する。
ただし、桃山学院大学『ユーザーズガイド』は各自手に入れておき、授業時には毎回持参すること。

【参考文献】

授業時に紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|---------------|-------|-----|-------|
| 福祉科教育法 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 林 陸 雄 |

【講義概要・学習目標】

この科目は教職課程における「教職に関する科目」の一つとして位置づけられた高等学校福祉科免許の必須科目である。高等学校の福祉科または普通科総合選択科における福祉科目の授業を担当しうるための基本的な理論と技法について教授する。教授内容は教育目標、教育内容、教育指導法等について系統的に理解させるとともに、実際の授業に必要な指導計画、教材研究、授業設計、評価、改善等についての理論と技法を教授する。教授の方法は、講義、演習、模擬授業等を組み合わせて展開する。

【授業計画】

- 1. 福祉科教育の意義
- 2. 福祉科の学習指導
- 3. 福祉科の教育課程
- 4. 福祉科の教材研究と評価
- 5. 福祉科授業の方法と社会福祉の理解
- 6. 福祉科教育法の実際1
- 7. 福祉科教育法の実際2
- 8. 福祉教育の歴史
- 9. 福祉科教論の資質

【成績評価の方法】

平常点及び定期試験の結果を総合して評価する。
出席回数が3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

【テキスト】

硯川真旬・佐藤豊道・柿本誠 編著『福祉科教育法』 ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜、授業中に紹介する。

は
行

| 科 目 名 | | | |
|--------|------|-----|-------|
| 福祉事情研究 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 梓 川 一 |

【講義概要・学習目標】

1. 生きることを感じあい、考えあえる講義を目指す。
2. 人間や社会についてテーマを設定して、そこから社会福祉について広く深く考察する。
3. 講義ではコミュニケーションを大切に、ディスカッションやディベートを取り入れる。

【授業計画】

1. 生活史の意味（重度障害者、難病者、末期がん患者のケース）
2. コミュニケーション、沈黙の意味
3. 障害をもつこと（権利擁護、障害者や患者の権利）
4. 社会福祉の理論の検討
5. 偏見と差別
6. 自己決定（主体的な自己決定と負の自己決定の考察）
7. 死刑制度の賛否
8. 障害者と性、高齢者と性
9. 医療福祉の実践課題（難病患者の生活状況、ALS患者の自己決定、結核患者の実態、公害病や被爆者の生活史など）
10. 語りと傾聴 共感の意味
11. 死の準備教育（死にゆく人の心、死の受容、社会福祉の役割）
12. 遊びの意味（遊びと仕事、遊びと社会福祉、アートの意味）
13. 人間の価値と尊厳
14. 社会福祉の実践理論（まとめ）

【成績評価の方法】

1. 出席と主体的な姿勢
2. 講義中のレポートとテスト
3. 期末試験
4. 以上を総合評価する

【テキスト】

牧洋子他編著『転換期〇医療福祉』せせらぎ出版、2005年。

【参考文献】

柳田邦男『死の医学の序章』新潮社、1986年。

| 科 目 名 | | | |
|-----------|------|-----|---------|
| フランス語 I a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 2単位 | 高 塚 桂 子 |

【講義概要・学習目標】

はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、自然で生きた会話的スケッチ文を読むと同時に、フランス語の文の構造や文法を理解して、フランス語の基礎を身につけるのが目的です。
テープも随時使用して、耳から、口からフランス語になじみます。言葉の習得には、模倣と反復が欠かせません。積極的にフランス語で「話す」「聞く」を体験してみましょう。

【授業計画】

日常会話の平易な表現に、最小限度必要な文法を学習します。

- ・フランス語の発音、性と数
- ・名詞、形容詞、動詞 (Etre, Avoir, その他)
- ・複合過去、近接過去、近接未来

更に、挨拶、簡単な自己紹介、人に物を尋ねる、買物をする等の様々なシチュエーションを想定した会話的スケッチ文の演習も行います。

【成績評価の方法】

筆記試験（期末試験・小テスト等）、出席と平常点（授業における積極性・反応度等）で総合的に評価します。

【テキスト】

プリントを使用。

【参考文献】

仏和辞書を常時持参のこと。

- Dictionnaire de Poche Français-Japonais / Japonais-Français Royal, OBUNSHA
- クラウン仏和辞典（三省堂）

| 科 目 名 | | | |
|-----------|------|-----|----------|
| フランス語 I a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 2単位 | アニー ヤマサキ |

【講義概要・学習目標】

会話的スケッチを読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた正しい口語表現を学習します。さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を積極的に行います。

【授業計画】

会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストはスケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生のほうからも用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語でこたえる、という相互形式で授業をすすめます。

【成績評価の方法】

出席、平常点と期末試験で評価します。毎回小テストや小レポートを行います。

【テキスト】

プリントを使用します。

【参考文献】

『クラウン仏和辞典』三省堂（6 edition）

| 科 目 名 | | | |
|-----------|------|-----|-------------------------------------|
| フランス語 I b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 2単位 | エディ ルイス バンドロム Eddy Louis VanDrom |

【講義概要・学習目標】

フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

最も大切なのはクラスの人たちと実際にコミュニケーション活動をする事です。たくさんの異なる相手と共同作業をすることによって、さまざまなコミュニケーションの状況に対応する訓練ができます。

ことばがつかえるようになるためには、どんどん使ってみることが一番です。今年の教科書ではたくさんのフランス語に接し、たくさん話したり書いたりします。

これからの1年間、フランス語に時間とエネルギーを投入する以上は、使えるフランス語を身につけようではありませんか。積極的に参加して、授業時間を最大限に活用しましょう。自分から進んで、楽しんですることほど、身につけやすいものです。気楽に、愉快にやってください。

【授業計画】

1. Leçon 1 道で
2. Leçon 2 カフェで
3. Leçon 3 教室で
4. Leçon 4 駅で
5. Leçon 5 カフェテリアで
6. Leçon 6 大学の食堂で
7. Leçon 7 映画
8. Leçon 8 夕食
9. Leçon 9 ピエールとジャクの家で
10. Leçon 10 ピストロで
11. Leçon 11 授業の間で
12. Leçon 12 庭で
13. Leçon 13 郵便局で
14. Leçon 14 電話で
15. Leçon 15 旅行代理で
16. Leçon 16 キャンパスで

【成績評価の方法】

1. 評価方法は前後の試験（1/3+1/3）及び 出席／平常点（1/3）の総合評価とする
2. 小テストの成績を総合的に評価する

【テキスト】

（ここに記載していただくのは、年間の授業に携帯すべき本・資料に限定します。）

>

> 授業時はテキストと仏日辞書を必携のこと

"Le français au quotidien", Numata/Matsumura/Yonetani/VanDrom, Editions ASAHI, 2005. ISBN 4-255-35167-8

【参考文献】

（例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA - 2001・Le Dico 現代フランス語辞典」（白水社）など）

は
行

| 科 目 名 | | | |
|-----------|------|-----|---------|
| フランス語 I b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 2単位 | 本 多 雄一郎 |

【講義概要・学習目標】

この授業では、フランス語の「話す」「聞く」「読む」というすべての面に重点をおき、それに必要な基礎的な文法を踏まえながら、ビデオ教材を併用して口頭による会話表現の訓練や読解の練習を続けていく。そしてフランス語の基本的な運用力を養成していく。

【授業計画】

<前期>四月中は主に発音練習を行うが、それと同時に挨拶ややさしい自己紹介などの表現を覚えて、フランス語の感覚を身につけていく。又ビデオ教材では単語の読み方や言葉の聞き取り練習も行う。五月以降は、テキストで紹介されている基本的な表現を中心に様々なシチュエーションにおける会話を学んでいく。

<後期>自分や他の人の紹介に加えて、日常生活を表現したり、自分の意見の表現方法や相手に質問したり、多様な練習を行っていく。

【成績評価の方法】

前期・後期試験と平常点（暗唱や授業中の発表）で総合評価する。

【テキスト】

『彼女は食いしん坊』藤田裕二著 朝日出版社

【参考文献】

『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書

| 科 目 名 | | | |
|------------|------|-----|---------|
| フランス語 II a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 2単位 | 高 塚 桂 子 |

【講義概要・学習目標】

既にフランス語 I を学んだ学生を対象に、「話す」「聞く」に加えて「読む」「書く」を充実させて、総合的なフランス語の能力を養うことを目指します。

1年目と同じように、積極的な姿勢を望みます。

【授業計画】

既に学んだ事項を必要に応じて復習しながら、より高度な文法を習得していきます。

- ・代名詞
- ・単純未来・半過去・大過去
- ・条件法現在・条件法過去
- ・接続法

会話表現から、時事問題を取り上げた現代文までをテーマとしたテキストの演習も併せて行います。

時には、シャンソン等を聞いて異文化と接しながらフランス語の理解も深めます。

【成績評価の方法】

筆記試験（期末試験・小テスト等）、出席と平常点（授業における積極性・反応度等）で総合的に評価します。

【テキスト】

プリントを使用します。

【参考文献】

仏和辞書を常時持参のこと。

- Dictionnaire de Poche Français-Japonais / Japonais-Français Royal, OBUNSHA
- クラウン仏和辞典（三省堂）

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|----------|
| フランス語Ⅱ a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 2単位 | アニー ヤマサキ |

【講義概要・学習目標】

勉強の仕方は一年目と同じですが、普通のフランス人が、今読んでいる様々な書物や雑誌、新聞から色々なテーマの文章を集め、その内容を理解しながら、それに関して会話であつかえるように、フランス語の実力を養います。

【授業計画】

現代文を自由によめるだけでなく、こちらから発信できるように、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞活用は、一年次でマスターしたところの、現在形とそれを応用した基本的な、様々な表現法以外に、さらに、標準的フランス語の読み書き、会話に必要で役立つ範囲にひろげて学習します。辞書は、常にクラスに持参すること。

【成績評価の方法】

出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回、小テストや小レポートを行います。

【テキスト】

プリントを使用します。

【参考文献】

『クラウン仏和辞典』三省堂 (6 edition)

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|--|
| フランス語Ⅱ b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 2単位 | エディ <small>エディ</small> ルイス <small>ルイス</small> バンドロム <small>バンドロム</small> Eddy Louis VanDrom |

【講義概要・学習目標】

フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

映画、ヴァカンス、買い物など身近なテーマに分けた会話を練習しながら、日本での自分の生活をフランス語で説明できるようにしたり、言葉を学びながらフランス人の生活ぶりをのぞいて、フランスの生活を体験できるようにします。

やさしいフランス語を実際の生活の場面に当てはめて練習しながら、自然に覚えていきます。笑いながら、楽しく、大きな声で、積極的に授業に参加して下さい。そうすれば心も身体もほぐれ、ストレスから解放されることでしょう。

【授業計画】

1. 授業の紹介と復習
2. 大学で (複合過去)
3. カフェで (代名動詞)
4. ホテルで (中性代名詞)
5. 招待された席で (単純未来)
6. 駅で (半過去)
7. はがき (関係代名詞)
8. キャンパスで (直接話法と間接話法)
9. 友達の家で (接続詞)
10. カフェテリアで (条件法)
11. 診療所で (接続法)
12. 電話で (現在分詞と過去分詞)
13. オルセー美術館で (単純過去)

【成績評価の方法】

1. 評価方法は前後の試験 (1/3+1/3) 及び 出席/平常点 (1/3) の総合評価とする
2. 小テストの成績を総合的に評価する

【テキスト】

(ここに記載していただくのは、年間の授業に携帯すべき本・資料に限定します。)

>

> 授業時はテキストと仏日辞書を必携のこと

"Le français au quotidien 2", Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom, Editions ASAHI, 2006. ISBN 4-255-35177-5

【参考文献】

(例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA - 2001・Le Dico 現代フランス語辞典」(白水社) など)

は
行

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| フランス語Ⅱb | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 2単位 | 本 多 雄一郎 |

【講義概要・学習目標】

この授業では、フランス語の基本的な文法の続きを学ぶことで、フランス語の全体像を把握していくとともに、より広範な運用力を身につけることを目的とする。なお授業中の作業のために辞書を必ず携帯すること。

【授業計画】

〈前期〉フランス語Ⅰで学んだ事柄を確実なものにするために今一度基本的な表現を復習し、その後はテキストに沿いながら「話す」「聞く」「読む」訓練を通して過去や未来などのより高度な表現を習得していく。

〈後期〉前期に引き続き、様々な表現に必要な特殊構文、動詞の活用などを学んでいく。さらにそれらの項目を含んだ文章を読んで理解したり、内容について質問したり答えたりすることで更なるフランス語力の向上を目指す。

【成績評価の方法】

前期・後期試験と平常点（暗唱や授業中の発表）で総合評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

【参考文献】

『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| プログラミング | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 02 | 秋学期 | 2単位 | 榎 本 光 世 |

【講義概要・学習目標】

プロフェッショナルもしくはアマチュアのプログラマー以外の人々にとってプログラミングのスキルを発揮できる状況はほとんどないと思われるが、プログラミングを体感してみることは、彼ら以外の人々にも有意義な経験である。ソフトウェア（以下ソフトと略称）には不具合（いわゆるバグ）が付き物なのは何か、要求の要件を満たすだけのプログラムでは何故不十分なのかを実感することができるだろう。また、プログラミングは無味乾燥なことではなく、パズルやゲームをするのと似た楽しさがあり、ほとんどの人に時間を忘れさせてくれるだろう。

本講の実習ではVisual Basic（以下VBと略称）を用いる。これは編集ソフト、人が書いたコードをPCが実行できるファイルにするソフト、そしてプログラムを実行しながら調べるソフトなどの統合開発環境である。今日、簡単に入手できるプログラミング言語ソフトの中でVBはおそらく最も理解し易いものだろうが、VBの先祖であり、かつてMS-DOSの時代にPCにバンドルされていたシンプルな言語のBASICと比べると、大部分異なり、より複雑で、しかも強力である。また、その一方でVBはマウスを使った操作でウィンドウにボタンやテキストボックスなどを配置でき、直感的に理解しやすい面もある。

本講は講義形式ではなく実習形式で行われる。体系的に知識を得ることよりも試行錯誤を通じてプログラムを作り上げることに重点が置かれ、同時に創意工夫を凝らすことが求められる。さながら作品を仕上げるアートの実践のようである。

本講義を受講するに際してプログラミングに対する予備知識は全く不要である。原則未経験者を対象にしている。しかし、プログラミングがワードやエクセルの操作とほとんど関係のないことは理解しておかなくてはならない。また、この時間内で初歩的なPCの使い方を説明している時間はないので習得してから臨むこと。学習目標は、プログラミングを体験しながら初歩的なプログラムを作成できるようになることである。

【授業計画】

1. 講義概要と受講上の注意とVB事始め（その1）
2. VB事始め（その2）
3. ボタンとMsgBox
4. 算術演算
5. キーボードからのデータの受け取り
6. 判断分岐（その1）
7. 判断分岐（その2）
8. 繰り返し処理（その1）
9. 繰り返し処理（その2）
10. 変数の配列
11. 自由課題プログラムのプレビュー（その1）
12. 自由課題プログラムのプレビュー（その2）

以上の内容は変更される場合もある。

【成績評価の方法】

出席率、宿題の提出率、自由課題プログラム、受講態度などによって総合的に評価する。自由課題プログラムは必ず提出しなければならない。

【テキスト】

毎時間プリントを数枚配布するので、バインダーのようなものを必ず用意すること。

【参考文献】

未定、開講時に指示する。

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| プログラミング | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 03 04 | 秋学期 | 2単位 | 大 嶋 耕 一 |

【講義概要・学習目標】

プログラミング言語にはさまざまなものがあるが、本講義ではその中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。

パソコンではWindowsが大勢を占める現状を勘案し、本講義ではWindows用にMicrosoft社が独自に言語拡張したVisual Basicを用いることにするが、これは初心者にはプログラムの全体像がつかみにくいという欠点をともなう。この点を考慮し、Windowsのインターフェースの設計は必要最小限にとどめ、BASIC言語の基本的なコマンドを用いた問題解決手法の学習に重点を置くことにする。

授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う方式をとる。

【授業計画】

第1回 ガイダンス、BASIC言語とは

第2回以後（自修方式）

◆必須修得内容（進度順）

以下は全員が学習し、指示された提出物を提出する。

1. Visual Basicによるプログラム作成の実例
処理系の起動・終了、簡単なインターフェースの設計
2. 書式、変数と代入ステートメント、オブジェクトとプロパティ
3. 文字列、式の表現（演算子・関数）、ステートメントの実行順序
4. プログラムのコンパイル、実行可能プログラムとショートカット
5. プログラムと制御構造
選択構造（ifステートメント）
反復構造（whileステートメント）

◆追加修得内容（以下は、進度に応じて追加的に学習）

6. 問題解決のためのアルゴリズム
7. ファイル入出力、サブプログラム

【成績評価の方法】

出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する。
（試験は実施しません）

【テキスト】

プリントでテキストを配布する。

【参考文献】

ステップバイステップで学ぶには、
薄金宏之進「Microsoft Visual Basic.NET 入門」, 日経BPソフトプレス, 2003
参照用には、
山田 健一「クイック・パワー・リファレンス VisualBasic.NET機能引きハンドブック」, ナツメ社, 2003

| 科 目 名 | | | |
|---------|-------|-----|---------|
| 文学－西洋 I | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 国 松 夏 紀 |

【講義概要・学習目標】

ヨーロッパの文学を交流史的な観点から概観します。担当者の専門はロシア文学ですが、ロシア文学は他のヨーロッパ諸国文学の影響下に成立し、そしてまた影響を与え返していますし、そういった事情はロシアに限らないからです。ロシア文学にかたよることなく、様々な具体的作品に言及し、豊穡なヨーロッパ文学への読書案内を目指します。

【授業計画】

便宜的にオーソドックスな時代的枠組みに従って講義を進めます。

- I. ヨーロッパ文学の源泉
- II. ルネッサンス（14、15、16世紀）
- III. 古典主義（17～18世紀）
- IV. 啓蒙主義（18世紀）
- V. ロマン主義（18～19世紀）
- VI. リアリズム（19～20世紀）
- VII. 象徴主義と《世紀末》
- VIII. 《両大戦間》・20世紀

各項につき、3～4講の予定。ただし、講義の流れに応じて、若干の計画変更はあり得ます。

【成績評価の方法】

春学期末レポートにより評価します。1回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出。これも評価の対象とします。出席重視、遅刻・私語厳禁。

【テキスト】

特に定めません。

【参考文献】

ヨーロッパ文学に関する参考文献は、枚挙に暇がありません。教室でその都度掲げることになります。

は
行

| 科 目 名 | | | |
|--------|-------|-----|-------|
| 文学－日本Ⅱ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 深 澤 徹 |

【講義概要・学習目標】

「平安文学」は、主に女性によって書かれたことで知られている。世界の文学の歴史からすると極めて異例である。なぜこの当時、女性が「文学」をも含めた文化活動の主導権を握ったのか。その事情を、当時の東アジアの国際情勢の中での日本の文化的な位置付けとからめて明らかにしていきたい。当時の日本は中国との関係の中で、ジェンダーとしての〈女〉に自らを位置付けて、文化的アイデンティティ形成を行った。また「平安文学」の特権化は、第二次大戦後の日本社会と対応して、後から「創造された伝統」（ホブスボーム）なのである。そこではアメリカとの関係の中で、自らを〈女〉のジェンダーに位置づけようとする政治的な力学が働いていた。そうした事情を歴史社会的に跡づけていきたい。

【授業計画】

1. 進駐軍（アメリカ軍）による占領統治という体験のもつ意味
2. 水村美苗著『私小説』と『本格小説』の日本的特質
3. 自己言及テキストとしての私小説と日記文学
4. 自己言及テキストとしての源氏物語
5. 新古今時代の文化概念と天台本覚思想
6. 仮名文の無根拠性と文字の物神化

【成績評価の方法】

2度の教場試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。

【テキスト】

深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』（森話社・2002）

【参考文献】

ハルオ・シラネ、鈴木登美篇『創造された古典』（新曜社・1999）

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 文化社会学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 北 川 紀 男 |

【講義概要・学習目標】

文化は人間にとって第二の本能ともいわれ、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間の社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない研究課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、ついで人間と文化の間に介在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的事象であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処かわれば、品かわる」とは、文化と社会の関係を巧くいいえて、社会的にみて興味ある表現である。

以上の基礎的な考察を踏まえて、複雑多岐に分化し目まぐるしく変転する現代文化の動向を解明するために、「大衆化」「国際化」「情報化」「共生化」の視点にたつて、批判的に考察をすすめてみたい。

現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。

【授業計画】

- ①イントロダクション ー社会学的认识についてー
- ②社会学における文化の研究 ー歴史と方法論ー
- ③文化の概念 ーシンボル・意味・価値ー
- ④文化と社会規範 ー規範・社会化・タブーー
- ⑤生活文化 ー生活様式としての文化ー
- ⑥文化と文明 ー文明社会の諸問題ー
- ⑦知識の社会学 ー知識・イデオロギー・科学ー
- ⑧大衆化と文化 ー大衆文化・被操作性ー
- ⑨国際化と文化 ー民族文化・国民文化・異文化間コミュニケーションー
- ⑩情報化と文化 ー情報化社会・ニューメディアー
- ⑪共生化と文化 ー高齢者・障害者・ジェンダーー
- ⑫文化変動と社会変動

【成績評価の方法】

原則として、期末試験に基づいて評価する。ただし、学習状況をみてレポートの提出を求めることもある。

【テキスト】

北川紀男『文化社会学研究』2004年（八千代出版）

【参考文献】

参考文献やその他の資料については、その都度指示する。

【備考】

SW生は、教育職員養成課程科目（随意）として履修

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|-------|
| 文化人類学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 小 池 誠 |

【講義概要・学習目標】

文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきた。この授業では、文化人類学独自のアプローチを通して、異文化に対する理解を深めることを目的とする。また、多様性を通して現れてくる人類としての普遍性もみていきたい。私たちの常識とはまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす、文化人類学の視点を身につけてもらいたい。

地域に根ざした日常文化を学ぶだけでなく、グローバリゼーションが進む現代世界で、地域社会がどのように変化しているかも考えていきたい。また、講義では、日本の民俗行事からアフリカの婚姻制度まで、世界中の多様な文化を取り上げる予定である。受講生の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を講義のなかに取り入れていきたい。

【授業計画】

- 1 文化人類学とは何か？
- 2 家族と結婚の多様性：家族とは、結婚とは何か？
- 3 交換と権力：なぜものを贈るのか？ どうして人は力をもつか？
- 4 国家と民族：なぜ民族紛争が起きるのか？
- 5 宗教と儀礼：人は何を信じ、何を求めるのか？
- 6 まとめ

【成績評価の方法】

期末試験の素点（約70%）をもとにして成績をつける。また、講義終了時に提出する出席カード（コメントを書く）にもとづいて出席点（約30%）をつけ、それを加味して総合評価を決める。参考までに、2004年度文化人類学の成績評価は、受講者347人中、A35.7%、B21.3%、C13.8%、D18.2%、試験欠席11.0%であった。

【テキスト】

なし

【参考文献】

講義のなかで必要に応じて紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 法学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 吉 見 研 次 |

【講義概要・学習目標】

概要

この講義では、受講者に現代日本法の概観を与え、市民の社会生活に関連の深い法分野について基礎的な知識を講述する。そこで、まず現代日本法を三大別し、公法分野（憲法、刑法、国際法等）、私法分野（民法、商法等）、社会法分野（労働法等）の各々につき略説する。そのうえで、[講義計画]に則って授業を進めていく予定である。なお、私語は厳禁。その他、受講時の留意事項について最初の授業時に言及する。

目標

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
- 2 憲法、民法および行政法の基礎を理解させる。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

【授業計画】

- 1 社会生活と法
- 2 民法
 - 1) 総則（成年後見を含む）
 - 2) 物権
 - 3) 契約
 - 4) 不法行為
 - 5) 親族
 - 6) 相続
- 3 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 4 行政法
 - 1) 行政行為・行政手続
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 情報公開
 - 5) 地方行政組織

【成績評価の方法】

正誤文選択等による短答式の学期末テストを予定している。

【テキスト】

菅野和夫ほか編『ポケット六法 平成18年版』（有斐閣）
*他社の『六法』でも可

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|-------------|------|-----|---------|
| 法情報学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 福 永 正 三 |

【講義概要・学習目標】

情報技術の進展にともない、情報はますます多機能化し、その使い道は拡大・伸張の一途にある。その結果、われわれの生活は簡便かつ効率的になる反面、情報をめぐるトラブルは精神的にも経済的にも多発し、それによる影響は深刻化してきた。

このような事態に社会的なルールはどう対応しようとしているのか。例えば、個人情報をきっちり捕捉され、いつ暴かれるかもしれない人々の精神の平穩の確保、あるいは技術的にいとも簡単に盗用できる知的財産の保護などの要請に、法的な手当ては十分なのだろうか。

また、今日の情報にかかわる技術環境に我々はどう向き合っていくべきなのだろうか。例えば、インターネットを通じて個人があたかも放送局をもてるような状況に、われわれが「心すべき」ことがあるとすれば、それは何なのか。情報に関わるモラルと法的な規制との関係はどうか。

本講義は、前者を情報法編、後者を情報倫理編として、両者を連携的に学習することを目的とする。

【授業計画】

1. 情報化社会の諸相とその特質
2. 情報と法
 - 1) 情報保護法制・概論
 - 2) 人格権としての情報の保護
 - 3) 財産権としての情報の保護
 - 4) 刑事法による情報の保護
3. 情報と倫理
 - 1) データの収集・管理と情報倫理
 - 2) 電子メール・ホームページと情報倫理
 - 3) セキュリティ技術と情報倫理
 - 4) 情報公開と情報倫理
4. 情報社会における人間像

【成績評価の方法】

講義途中で2度、情報法編および情報倫理編の終了時に小テストをおこない、学年末の総合テストとともに、これらの結果を総合評価する。

なお、出席状況も考慮する。

【テキスト】

教科書は使用せず、毎週の講義時にレジュメを配布する。

【参考文献】

講義の進行にあわせて図書館に所蔵されている適当な参考文献（雑誌論文を含む）の探し方を教示するとともに、参考資料として講義で取扱う法令や判例等をプリントして配布する。

なお、インターネット上で関連資料を掲載するサイトも紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|-------------------|------|-----|---------|
| 法職インターンシップ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 寺 田 友 子 |

【講義概要・学習目標】

インターンシップとは、在学中に企業等において研修的な就業体験をする制度で大学教育と社会での実地体験を結合することにより、教育効果をいっそう挙げることを目的とする。

法学部で開講する法職インターンシップも同様であって、在学中弁護士事務所等法職の事務所において、就業体験を得ることで、大学での教育効果をいっそう高め、又、学生の職業意識を涵養、醸成することなどを目的として実施する。

なお、本科目は、事前に実施される応募（資格あり）、選考の手続きを経て、受講決定を受けていない場合には、履修手続きができないので注意すること。

【授業計画】

プログラムの概要

- (1) 事前研修
 - A プログラム・応募資格等のガイダンス
 - B 研修企業・団体による事前研修
 - C ビジネスマナーの指導
 - D 研修要領の説明と報告書の作成指導
- (2) 研修期間

夏期休暇中に、弁護士事務所等で研修を受ける（60時間以上、2週間の予定）
- (3) 事後研修

研修結果の報告

【成績評価の方法】

事前研修、研修先からの評価、研修報告書及び事後研修などを総合的に勘案して評価する。

【備考】

受講対象者は3回生で、学科選択科目に位置する。

科 目 名

法職オリエンテーション

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|---------|
| | 秋学期 | 2単位 | 前 田 徹 生 |

【講義概要・学習目標】

法学部の学生諸君は、将来、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹、司法書士、公務員、警察官、あるいは企業家、一般企業のサラリーマンへ進む方が多いと思います。法職オリエンテーションは、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹実務家、法務関係の公務員、実務家、地方公共団体の長、国内外で法務に携わるビジネスマン、ビジネスの世界で活躍する人々等をゲスト・スピーカーとして招き、また、ビデオ等を利用して、実社会での経験や法実務の興味深い事例や事件を報告してもらいます。それによって、これから学習する法の世界や実社会を具体的に体得し、学習へのモチベーションを高めるとともに将来の職業選択の一助となることをねらいとしています。

【授業計画】

- 1) ガイダンス
 - 2) ゲスト講師との交渉の結果、講義開始時点で、一覧表を配布する。
参考のため、昨年度の講師一覧を紹介する。
- 2005年度法職オリエンテーション講義
- 9月30日(金) 講師：前田徹生(法学部教授)
テーマ：法職オリエンテーション・ガイダンス
- 10月7日(金) 講師：吉永文貴氏(LEC東京リーガルマインド公務員講座講師・関西大学法科大学院在学)
テーマ：(仮題)「国家試験をめぐる最近の状況」
- 10月14日(金) 講師：佐野 正幸氏(さくら法律事務所・弁護士・元裁判官)
テーマ：「裁判官の仕事と生活」
- 10月21日(金) 講師：木本博之(兵庫県行政書士会理事・W.セミナー専任講師)
テーマ：(仮題)「行政書士の仕事」
- 10月28日(金) 講師：辰野 勇氏((株)モンベル代表取締役社長・冒険家)
テーマ：「遊ビジネス——冒険と夢を語る」
- 11月4日(金) 講師：：新垣たずさ(環境庁・本学卒業生)
テーマ：「公的仕事の多様性」
- 11月11日(金) 大学祭休講
- 11月18日(金) 講師：久米川良子氏(久米川法律事務所・弁護士)
テーマ：「弁護士として」
- 11月25日(金) 講師：佐野 正幸氏(さくら法律事務所・弁護士・元裁判官)
テーマ：「弁護士の仕事」
- 12月2日(金) 講師：原田英明(大阪府警察本部警察官採用センター)
テーマ：「警察官の職務」
- 12月9日(金) 講師：藤村輝子氏(藤村法律事務所弁護士・元検察官)
テーマ：「検事、その多彩な職域と職務——格好よくするのは楽じゃない——」
- 12月16日(金) 講師：辰野 勇氏((株)モンベル代表取締役社長・冒険家)
テーマ：「グローバル・マーケットへの挑戦——カリフォルニア連邦地裁陪審裁判を経験して——」
- 1月6日(金) 講師：藤原照明氏(元丸紅株式会社・バイルート、香港、コロンボ勤務)
テーマ：「国際ビジネスと日本」
- 1月13日(金) [予備日]
- 1月20日(金) 講師：伊田 和泰(県立ぐんま学園勤務・本学卒業生)
テーマ：「共生共育～子どもと共に生きていくことについて」

【成績評価の方法】

2/3以上の出席を単位認定の最低条件とする。出席日数と二度のレポート等を総合して成績評価の判断をおこなう。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

その都度紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 法女性学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 松 田 聡 子 |

【講義概要・学習目標】

男女共同参画社会基本法が制定されて以降、男女共同参画社会を目指すさまざまな取り組みが具体化されている。法女性学では、民法や刑法、労働法などを素材にわが国における女性・男性・性をとりまく法環境を概観し、男女共同参画の視点から法制度の問題点やこれからの展望を探っていく。諸外国との比較も欠かせない視点である。

【授業計画】

1. 堕胎罪と中絶規制
2. 中絶と生む権利
3. 優生保護法から母性保護法へ
4. 婚姻成立の要件と課題
5. 人工生殖と親子関係
6. 人工生殖とフェミニズム
7. 「選択的夫婦別姓制」の論点
8. 「離婚制度」見直し論
9. 夫婦財産制
10. 夫または恋人からの暴力
11. 性暴力と刑法
12. セクシュアルハラスメント
13. セクシュアリティーと売買春規制
14. 労働法と女性
15. 男女雇用機会均等法の課題
16. 養育・介護・年金と女性
17. 政治と女性
18. 女性差別撤廃条約・北京会議・日本

【成績評価の方法】

講義時の課題提出、小テスト、学期末試験で判断

【テキスト】

参考文献のほか、とくに用いない。

【参考文献】

辻村みよ子『ジェンダーと法』不磨書房、浅倉むつ子他『ジェンダー法学』不磨書房、浅倉むつ子他『フェミニズム法学』明石書店、金城清子『ジェンダーの法律学』有斐閣、山下泰子他『法女性学への招待』有斐閣、角田由紀子『性差別と暴力』有斐閣、門広乃里子他『Invitation 法学入門（新版）』不磨書房

| 科 目 名 | | | |
|----------------|------|-----|---------|
| 法制史－西洋法と日本法の出会 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 的 場 かおり |

【講義概要・学習目標】

わたしたちは現在、さまざまな法律に囲まれて生活をしている。法学の課題とは、一方で、これらの法律や法システムを解釈することであり、他方で、これらの法律やシステムがいかにして生成されたのか、そしてそれらはいかに展開・変容してきたのか、という歴史を探求することであり、これら2つのアプローチはどちらも欠くことができない。本講義は、後者のアプローチをとる。歴史とは、単に過去を学習することにとどまらず、わたしたちは今どこに立っているのか、どのようにしてここに到達したのか、そして将来的にはどの方向に進むべきなのか、という現代、将来をも見通す視点を獲得するという意味を与える学問である。

普段わたしたちが接している法律やそのシステムの基礎は誕生してせいぜい100年、場合によっては50年あまりの歴史しかない。いわゆる「法の近代化」は、明治時代とともに開始し、法の継受という現象を生み出した。これは、国家創りのモデルとする国を、中国から西洋に変更することを意味し、その後、精力的に西洋近代法は日本に継受された。

法に対する思考、法の体系性など多くの要素は現代法にも受け継がれており、近代法の形成とその展開を考察することは大きな意味をもっている。この考察を進めるうえでは、比較法という視点・観点は不可欠であり、日本の近代法とともに西洋の近代法を講義の素材とする。そのなかで、わたしたちが普段自明であると考えている法概念や法体系がどのように西洋で誕生・展開・変容し、どのように日本に継受・展開・変容したのか、現代法とどのような連続性・断絶性をもっているのか、を明らかにする。

【授業計画】

前期・後期ともに、「法の近代化」という共通テーマで講義を行なう。前期では、日本の法の近代化に大きな影響を与えた、ヨーロッパ諸国の法を、そして後期では、われわれ日本の法を、その対象として扱う。

【前期】後期において日本の近代化を学習する前に、ヨーロッパのとりわけ大陸法系諸国の法を学習する。そのさい、とりわけ日本の法の近代化のモデルとなった、ドイツを考察の中心とする。

1. 法の近代化とは
2. 近代化とナポレオン
3. 三月前期のドイツ～法典編纂論争を中心に
4. 三月革命
5. フランクフルト憲法の制定とプロイセン憲法の欽定
6. ビスマルクによるドイツ統一
7. ドイツ帝国憲法ならびにその他の法典の編纂

【後期】明治維新とともに始まる日本の近代を法という観点から読みとく。そのなかで、法律ならびに法システムにとどまらず、それらを支える法思考や法理念は、その多くをヨーロッパから「継受」し、ヨーロッパの近代法をモデルとしている。どのようにヨーロッパの近代法システムや法思考を日本に継受したのか、変容させたのか、を中心課題とする。

1. 明治維新と近代化政策
2. 中央集権化と行政機関の改革
3. 大日本帝国憲法の欽定とその特徴
4. ボアソナードと刑法典の編纂
5. 治安立法～「臣民の権利」における法律の留保
6. 旧民法と明治民法～民法典論争の意味とその結果

【成績評価の方法】

出席、レポート（1回）ならびにテスト（1回）に基づく総合評価。

【テキスト】

岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版、1996年）

【参考文献】

適宜授業中に指示する。ただし、講義の基本的理解を助ける文献として、富永健一著『日本の近代化と社会変動』（講談社、1990年）、村上淳一著『近代法の形成』（岩波書店、1979年）、川口由彦著『日本近代法制史』（新世社、1997年）、勝田有恒他著『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）、山中永之祐編『日本近代法案内：ようこそ史料の森へ』（法律文化社、2003年）などが挙げられる。

| 科 目 名 | | | |
|-------------|-------|-----|---------|
| 法制史－日本の法と社会 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 生 瀬 克 己 |

【講義概要・学習目標】

「法」がその役割を果たすには、憲法や法律のような法規範が存在するだけでは不十分である。現実には、法規範が力を発揮するための「しくみ」が必要である。つまり、現実の社会は法規範とそれを支える法機関によって成り立っていることになる。そして、これらは、それぞれの時代によって異なる。そうした「時代」とその「変化」の意味を理解してもらおうのが目的である。

【授業計画】

1. はじめに
2. 江戸の法と社会
3. 戦前の法と社会
4. 戦後の法と社会
5. まとめ

【成績評価の方法】

講義中のレポート（数回、30%）と期末テスト（70%）で評価する。

【テキスト】

特には指定しない。

【参考文献】

必要に応じて指定する。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|---------|
| 法哲学－正義・権利・人権 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 沼 口 智 則 |

【講義概要・学習目標】

「法とは何か」という問いは、法を学ぶ者にとって最初に問い、そして最後にもう一度問う問題である。

法哲学は、この問いに正面からとりくむ学問であるといえよう。法を通じて、現代をとらえ未来を展望するための基軸（視座）を獲得するための旅が、この問いから始まる。本講義では、「正義・権利・人権」を中心に法哲学の基本問題にアプローチしていきたい。

【授業計画】

メイン・テーマ「正義・権利・人権」

1. 法哲学とは何か
2. 欧米諸国の法哲学の傾向－英・米・独を中心として－
3. アジア諸国の法哲学の傾向－日本・韓国を中心として－
4. 現代正義論・権利論・人権論
5. 現代法哲学と二十一世紀の諸問題－たとえば生命倫理・地球環境問題・核問題・民族や宗教紛争・テロ問題etc…－

【成績評価の方法】

夏休みに簡単なレポート（指示する課題図書の中から選択）を書いてもらうとともに、学年末試験（論述式選択問題）で総合評価する。春・秋学期中に授業中に書ける程度の小レポートを要求する場合もある。

【テキスト】

長谷川晃・角田猛之編『ブリッジブック法哲学』（2004年 信山社）

【参考文献】

開講時に基本文献リストを配布するとともに、講義でその都度指示する。

は
行

| 科 目 名 | | | |
|---------|-------|-----|---------|
| 法哲学－正義論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 山 川 偉 也 |

【講義概要・学習目標】

本講義は、法哲学の課題範囲を西洋法思想史のそれに限定し、なおかつ「正義」論を主題として論ずるものである。西洋正義論の伝統は、ギリシアに始まる。そこで、この講義ではさらに範囲を限定してギリシア正義論の伝統を跡づけることとした。

【授業計画】

ホメロスの叙事詩『イーリアス』における「正義」のありようを「ゼウスの正義」という題目の下に論ずることから始め、ヘシオドスの『仕事と日々』、プラトンの『国家』篇、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』を次々に取り上げていく。そしてヘレニズム時代における普遍的正義論やローマ法に言及していく。

【成績評価の方法】

授業中に行う小テストおよび学期末におけるテストの結果を総合して評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

Hideya Yamakawa, Greek Philosophy and the Modern World, International Center for Greek Philosophy and Culture, Athens, 1998

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|-------|
| 簿記 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 4単位 | 河 野 勉 |

【講義概要・学習目標】

簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも1年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表・損益計算書）を作成しなければならない（商法第32条、商法第281条）。

その決算書は、利害関係者（経営者、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、企業にとって、ディスクロージャー（情報公開並びに透明性）& アカウンタビリティの必要性が最重要視されている。

決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。

企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。

更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行された今日のペーパーレス化と帳簿との関連についても言及したい。

【授業計画】

<前半>

1. 複式簿記の原理…

(1) 簿記の意義と目的

(2) 簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益）

(3) 簿記の仕組み（取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目）

2. 仕訳帳と元帳…

(1) 仕訳と仕訳帳

(2) 転記と元帳

3. 試算表…

(1) 試算表の意味と種類

(2) 試算表の貸借合計不一致

4. 決算（その1）…

(1) 決算の意味と手続

(2) 帳簿決算（英米式・大陸式）

<後半>

5. 取引の記帳…

(1) 現金・預金取引

(2) 商品売買取引（仕入帳・売上帳・商品有高帳・商品売買益の計算）

(3) 信用取引

(4) 手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形）

(5) 有価証券取引

(6) 固定資産取引

(7) 個人企業の資本取引

6. 決算（その2）…

(1) 決算整理の意味

(2) 棚卸表

(3) 棚卸減耗損と商品評価損

(4) 貸倒引当損と貸倒引当金

(5) 有価証券評価損

(6) 減価償却

(7) 費用・収益の繰延べと見越し

(8) 精算表

【成績評価の方法】

簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定3級に合格した場合は、成績評価に加算する。

【テキスト】

武田隆二著

「簿記一般教程」（中央経済社）

加古 宜土・渡部 裕互（編著）

「新検定簿記 ワークブック3級」（中央経済社）

【参考文献】

加古 宜土・渡部 裕互（編著）

「新検定簿記講義3級」（中央経済社）

| 科 目 名 | | | |
|-----------|------|-----|---------|
| 簿記 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 4単位 | 山 本 浩 二 |

【講義概要・学習目標】

企業は、利益を獲得することを目的として、さまざまな活動を行っている。簿記は、企業が営むさまざまな経済活動を貨幣金額で記録する重要なシステムであり、経営学や会計学を学ぶにあたっての必須の基礎知識である。簿記の目的は、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることである。本講義では、商業を営む企業の簿記である商業簿記を前提にして、複式簿記の基本原則、日常の取引の記録から決算にいたる簿記の一連の手続きを説明する。簿記は、資格としても役立ち、日本商工会議所主催の検定試験が行われている。検定試験合格に必要な知識を含めて、簿記と会計の基本知識を講義したい。

【授業計画】

前期

- (1) 複式簿記の計算原理 (損益法と財産法)
- (2) 複式簿記の計算構造
- (3) 勘定と記帳
- (4) 試算表、精算表
- (5) 決算

後期

- (1) 個別勘定科目の処理－現金、当座預金
- (2) 個別勘定科目の処理－商品
- (3) 個別勘定科目の処理－売掛金、買掛金
- (4) 個別勘定科目の処理－手形、その他の勘定
- (5) 決算手続きと決算整理事項

【成績評価の方法】

前期・後期の各期末試験で評価する。

【テキスト】

加古宜士・渡部裕亘編著『新検定簿記講義 3級商業簿記』中央経済社

加古宜士・渡部裕亘編著『新検定簿記ワークブック 3級商業簿記』中央経済社

【参考文献】

必要に応じて指示するが、日商簿記検定試験3級用のテキストならば、いずれも参考文献として適している。

| 科 目 名 | | | |
|------------|-------|-----|---------|
| 保険論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 武 田 久 義 |

【講義概要・学習目標】

保険はリスクに対処する経済的手段の一つである。リスクに対する合理的管理法は、一般にリスク・マネジメントと呼ばれており、その手段は、基本的にリスク・コントロールとリスク・ファイナンスに分けて考えられる。そして保険は、リスク・ファイナンスのなかで中心的な役割をなしている。リスクが増大している社会では、リスク・マネジメントや保険の学習はおそらく不可欠のものとなるだろう。

ところで、日本の保険制度は、現在転換期にあると思われる。以前の日本では考えられなかったような様々な出来事が起きている。これは、保険制度に限らず、日本自体が歴史的な転換期にあるからであろう。

この講義では、まず最初に、リスク・マネジメントと保険についての基礎的な学習を行う。その上にとって歴史や文化等の諸要素を考慮しつつ、転換期における保障制度のあり方についても考えていきたい。

【授業計画】

主な講義内容は、次の通りである。

- ① リスクの意味と内容
- ② リスク・マネジメント
- ③ 保険の意義と役割
- ④ 保険の類似制度
- ⑤ 保険の契約
- ⑥ 保険の種類と代表的な保険について
- ⑦ 保険の歴史と文化
- ⑧ 保障制度の将来

【成績評価の方法】

期末テストとレポート等による。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

保険に関連するものは、基本的に参考になる。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、B生対象外

B生は学科教育科目

は
行

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| ボランティア論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 大 野 順 子 |

【講義概要・学習目標】

社会を形成する新しいセクターとして、その社会的地位を確立しつつあるボランティア活動、市民による自発的な活動、NPO等についての基本的理解を中心に、ボランティア概念の変化、及び多様な活動内容を検証していくなかで、社会のニーズを的確に読み取る「ちから」を育成する。

【授業計画】

授業を構成する2つのポイント

I. 通常の講義は以下の内容を中心にする。

1. ボランティアと市民社会の関係
 - (1) 市民という概念／市民性
 - (2) 市民活動・ボランティア活動
 - (3) 市民社会という概念の変化
2. 公益性について
3. NPO（非営利組織）とは何か
 - (1) 組織運営について
 - (2) NPO法・制度
 - (3) 社会的役割
 - (4) その他
4. 市民社会を支える多様な活動領域
5. ボランティアの新しいあり方
 - (1) 連携・協働
 - (2) 企業の社会貢献・社会的責任
6. その他
 - (1) ボランティアコーディネーター
 - (2) ネットワーキング
 - (3) データで見るボランティア
 - (4) 海外との比較

II. ボランティア活動体験報告書の作成

第一回目の授業時に配布するボランティア活動計画書に各自希望活動内容を記入し、ボランティア体験の報告書を作成する。活動先等については基本的に各自が希望するところをあらかじめ考え、活動内容等も下調べしておく。

【成績評価の方法】

出席、毎時の課題レポート、ボランティア体験報告書、授業への積極的参加・貢献度、試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

毎時テーマに沿ったレジュメを配布する。

【参考文献】

『ボランティアと市民社会～公共性は市民が紡ぎだす～』編者：立木茂雄 発行：晃洋書房 1997年初版

『なぜボランティアか「思い」を生かすNPOの人づくり戦略』著者：スーザン・エリス 訳者：筒井のり子他 発行：海象社 2001年初版

『非営利組織の経営—原理と実践—』著者：P・F・ドロッガー 訳者：上田惇生他 2004年第18刷

『哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造』著者：ロバート・D・パットナム 訳：河田潤一 2001年

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、SW生対象外
SW生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|----------|-------|-----|-----------|
| マーケティング論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 鈴 木 幾 多 郎 |

【講義概要・学習目標】

この講義では、マーケティングの役割、マーケティング・マネジメント、マーケティング戦略、市場調査と消費者行動、製品開発戦略、競争戦略、マーケティング・チャネル戦略、価格戦略、プロモーション戦略などマーケティング問題を分析するための基本概念と手法を説明し、ケースや事例研究をもとに、マーケティング戦略の考え方を解説する。

【授業計画】

1. マーケティングの役割
2. 市場創造と企業活動
3. 価値形成と価値実現のマーケティング
4. 製品コンセプトと新製品開発
5. 事業の定義とマーケティング戦略
6. マーケティング組織のデザイン
7. 市場調査と消費者行動
8. 競争戦略
9. マーケティング・チャネル戦略
10. 価格戦略
12. プロモーション戦略
13. ブランド戦略とマーケティング
14. 関係性マーケティング
15. 新たな市場戦略とマーケティング

【成績評価の方法】

レポートならびに試験で評価する。

【テキスト】

石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門』日本経済新聞社

【参考文献】

参考文献や資料については、その都度紹介する。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、B生対象外
B生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|-----------|------|-----|---------|
| マスコミの英語研究 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 萬 戸 克 憲 |

【講義概要・学習目標】

この授業では、TVニュースが聞き取れるようになることが目標であるが、現在日本および世界の各地で起こっているさまざまな問題について、幅広い立場から考えることができるように構成する。

基本的にはアメリカのニュース番組ABCを視聴しながら、TIMEやNewsweekの関連記事も随時取り上げる。

なお、各課題のあとには、そのテーマについて自分の考えを100～150語の英語でまとめて提出し発表する。

さらに毎時間の最初には数名に英語でのスピーチを課す。

途中で欠席すると、どんどん遅れていくので欠席しないように。

【授業計画】

年次計画

次の課題を取り上げる。ただし、受講者の希望により多少の変更はある。

前期：

Inside North Korea
America's Pampered Pets
Fighting Junk Food in Schools
Terri Schiavo Case
Shark Fighters
Small Steps

後期：

Laughter: The Best Medicine
Measuring Success: The New SAT
Girl Scout Cookies
Selling Identities
DNA Tests
A Closer Look: Women and Science

【成績評価の方法】

授業への参加度、4～5回の英語でのスピーチ、各課の後に提出する英語でのessayおよび期末考査

【テキスト】

山根 繁/Kathleen Yamane『ABC World News 8』Kinseido

| 科 目 名 | | | |
|-----------------|-------|-----|---------|
| マス・コミュニケーション論 I | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 中 村 秀 之 |

【講義概要・学習目標】

本講義が扱うのはマス・メディアとマス・コミュニケーションにおける映像の問題です。

映像はマス・コミュニケーションの「メディア」としてどのように使われ、どのような特性をそなえているのか、映像による「コミュニケーション」とはいったい何なのか。

このような諸問題に、特に歴史的・文化的な視点からアプローチしていきます。19世紀初頭の写真の発明から映画やテレビ、ビデオを経て現代のデジタル映像まで、映像資料を参照しながら、映像にかんする技術、その利用形態、組織や制度、表現様式等の変遷を述べ、さらに、映像をめぐる人々の経験のあり方や、映像に対する考え方がどのように変化してきたかを論じます。

現代の生活世界に深く浸透している映像メディアの歴史を学ぶことを通して、映像メディアはどのようにして私たちの「現実」を作り出してきたのか、また、私たちは「映像メディアという現実」とどのような関係を結んでいるのか、このような二重性について理解を深めることが本講義の目標です。

【授業計画】

次のような項目を予定しています。

マス・メディア/マス・コミュニケーションの研究史

写真：その原理と記号論的特性

19世紀写真のメディア論的特性

20世紀における写真の「報道メディア」化

映画：その技術的要素と誕生

初期映画における娯楽と報道

戦間期におけるニュース映画の変化

第二次世界大戦と映画

テレビ：消費の装置としてのテレビ

テレビの神話とその崩壊

テレビと疑似イベント

現代の映像とメディア

【成績評価の方法】

学期末の筆記試験と授業中に課題を出すレポートで評価します。出席点はカウントしませんが、授業への参加が講義内容の理解にとって不可欠であるのはいうまでもありません。本講義は授業中に映像資料を視聴する機会が多いので、特にその点を銘記して受講してください。

【テキスト】

授業中にプリントを配布します。

【参考文献】

適宜、指示ないし紹介します。

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、SS生は対象外

SS生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|---------------|-------|-----|---------|
| マスコミュニケーション論Ⅱ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 津金澤 聡 廣 |

【講義概要・学習目標】

我々は、日々、新聞・雑誌を読み、テレビ・ラジオを視聴したり、他の様々なメディア文化に接触して暮らしている。そして、それらの情報摂取をとおして、いわばその時代の“常識”や社会風俗を吸収している事が多いが、そもそも、マス・コミュニケーションとは何なのか、マスメディアは我々の生活にとってどんな社会的役割を果たしているのか、を改めて考え直してみたい。あるいは、マス・コミュニケーションを媒介するマス・メディアのあり方はこれでよいのか、何が問題なのかを、共に考え、検討したいと思う。

【授業計画】

次の各領域について概説を行う。

1. ジャーナリズム、マス・メディア、マス・コミュニケーションの定義
2. テレビ批判の系譜
3. マス・メディアをめぐる法的諸問題
4. 放送法の主要な論点
5. プロパガンダ研究から宣伝・広告研究へ
6. 宣伝法と現代消費社会における宣伝・広告の手法
7. テレビCMの社会心理
8. プライバシーの権利と肖像権をめぐる諸問題

【成績評価の方法】

平常点（レポート提出等）（出欠調査を兼ねた復習小テスト5～6回）と学期末試験による総合評価。

【参考文献】

津金澤聡廣・田宮武著『テレビ放送への提言』ミネルヴァ書房、1999年
その他、その都度指示する。

| 科 目 名 | | | |
|-----------|------|-----|---------|
| マルチメディア実習 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 秋学期 | 2単位 | 佐々木 あゆみ |

【講義概要・学習目標】

今日、情報社会・人間生活においてコンピュータ、ネットワークの発達が目覚ましいものがある。文字データだけであったものが画像（静止画、動画）音声データを処理できるようになってきた。それらを通じて提供される情報は、社会の変革をもたらすほどの影響力を持ち、またそれらを扱う能力、メディア・リテラシー（メディアの読み取り、書く能力）は、必要不可欠の要素となってきた。

本講義では、メディア統合、情報・通信時代のそれぞれのメディアの特性、基礎理論を理解し、表現手段として活用できる能力、また単にメディアコンテンツが作れるというだけでなく、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を実習で身に付けることを目的とする。

【授業計画】

1. マルチメディア概論
 - 1) マルチメディア概論、利用方法
 - 2) ソフトウェアとハードウェア環境
2. デジタルコンテンツの作成方法とメディア表現
 - 1) 静止画（デジタル・カメラ）撮影
 - 2) 静止画作成・編集（フォトショップ）
 - 3) 動画（ビデオ・カメラ）撮影
 - 4) 動画作成・編集（プレミア）
3. マルチメディアと周辺領域
 - 1) インターネット
 - 2) データベース、関連法規、倫理との関連
4. まとめ

【成績評価の方法】

実習と出席点で総合評価

【テキスト】

特になし。適時、プリントを配布

【参考文献】

「3日で使える！アドビ・プレミア。プロ入門講座」（玄光社）
「新版Study Guide メディア・リテラシー入門編」鈴木 みどり（編）（リベルタ出版）
その他、講義の時に提示する。

| 科 目 名 | | | |
|-----------|------|-----|---------|
| マルチメディア実習 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 秋学期 | 2単位 | 平 井 尊 士 |

【講義概要・学習目標】

今日、情報化社会において知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められる。特に、情報の電子化技術の中で、マルチメディアなどのメディアが進展する中で、デジタルコンテンツを有効に活用するとともに研究者や技術者自らが外に向かって情報を発信するための作成技術を身に付ける事が必要になっている。

そこでメディアを発信していく際の基礎的な知識から応用技術について取り上げ演習する。具体的には、コンピュータを利用したメディアの活用方法を各種メディアの現状、特性、活用などの観点から、情報メディアについて基礎能力（図形処理や画像処理）を習得する中で、学生がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするために学習活動の充実に努める。あわせて、関連法規、倫理についても学ぶ。ただし、マルチメディアについて学習させるときには、単に技術的に各メディアの技術ばかりに深入りしないようにも注意を払う。

【授業計画】

1. マルチメディア概論（特徴と利用方法）
 - 1) マルチメディア概論
 - 2) 各マルチメディアの利用方法
 - 3) 学校における情報環境
2. ソフトウェアを選択して、メディアの表現や発信
 - 1) デジタルコンテンツの作成方法（ブラウザベース）
 - 2) 印刷物の電子化技術
 - 3) デザイン技法とのかかわり
3. モデル化とシュミレーション（作品作成）
 - 1) モデル化
 - 2) マルチメディア作成技法（図形処理、画像処理）
4. シュミレーション（表現方法の工夫・情報の統合）

SGML XMLの処理演習と活用事例
5. マルチメディアと周辺領域の関連
 - 1) 情報検索およびデータベースとマルチメディア
 - 2) 関連法規、倫理との関連
6. まとめ

【成績評価の方法】

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

【テキスト】

常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社 2003. 4）

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| マルチメディア論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 春学期 | 2単位 | 佐々木 あゆみ |

【講義概要・学習目標】

今日、世界でやりとりされる主な情報伝達方法は、郵便、新聞、雑誌、電話、映画、テレビ、CM、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代、どこでもコンピュータを利用できるユビキタス社会と呼ばれるようになってきた。それは単なるコンピュータの発達、変化だけではなく、メディアのコンテンツがネットワーク上で融合することを意味しており、情報・通信産業あるいは人間社会にまで大きな影響を与えている。

本講義では、メディアとソフトウェア、表現、社会、環境はどのような関連をもつのか、その基礎理論、歴史、現状を学習することにより、ユビキタス社会での知識・情報の活用、新しいものの価値を生み出す創造力、メディア・リテラシーを身に付けることを目的とする。

【授業計画】

1. メディア（媒体）とは
 - 1) メディアの歴史
 - 2) メディアと社会環境
 - 3) メディア・リテラシーとは
 - 4) ユビキタス社会とは
2. 表現とメディア
 - 1) ハードウェアとソフトウェア
 - 2) マルチメディアの現在
 - 3) ネットワーク社会（インターネット）
3. マルチメディアの意義と問題点
 - 1) メディアとしての仮想現実空間
 - 2) メディアとリアリティ（公共媒体）
 - 3) メディアとリアリティ（広告媒体）
 - 4) メディアと倫理、関連法規
4. まとめ

【成績評価の方法】

出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点で総合評価

【テキスト】

特になし。適時、プリントを配布

【参考文献】

「メディア・リテラシー マスメディアを読み解く」カナダ・オンタリオ州教育省（編）（リベルタ出版）

「新版Study Guide メディア・リテラシー入門編」鈴木 みどり（編）（リベルタ出版）

その他、講義の時に提示する。

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| マルチメディア論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 春学期 | 2単位 | 平 井 尊 士 |

【講義概要・学習目標】

今日、世界でやりとりされる主な伝達方法は、郵便、新聞、電話、テレビ、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報化社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。

そこで本講義においては、メディアとソフトウェア、表現、環境はどのような関連をもつのか、「Microsoft Office 2000」などの既存のソフトを利用し、基礎理論（図形処理や画像処理）を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を発揮できるようになることを期待している。

また、メディアを取り巻く技術の進展の早さゆえに、メディアに関する研究は、過去を捨て去ってきた傾向が見受けられるため、歴史を振り返りつつ、メディアを取り巻いてきた社会制度の整備についても学習する。

【授業計画】

1. マルチメディア概論（特徴と利用方法）
 - 1) マルチメディアの現在
 - 2) 各マルチメディアとインターネット
2. ソフトウェアとメディア
3. 表現とメディア（「Microsoft Office 2000」等の利用）
 - 1) 電子化技術の追求
 - 2) メディアとしての仮想現実空間
 - 3) メディアとリアリティ（公共媒体と広告媒体）
 - 4) 図形表現とその演習
 - 5) 画像表現とその演習
4. 環境とメディア
 - 1) メディアと環境
 - 2) メディアと歴史
 - 3) メディアと倫理（ことばの暴力）
 - 4) 関連法規との関連
5. まとめ：マルチメディアの意義

【成績評価の方法】

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

【テキスト】

常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社 2003. 4）

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 民事執行法 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 本 間 法 之 |

【講義概要・学習目標】

民事執行法とは、簡単に言えば、強制執行の手続を定める法律のことです。民法・商法などの実体法上の権利は、民事訴訟の判決によって観念的に形成（実現）され、強制執行手続によって事実として形成（実現）されることとなります。本講義では、この民事執行手続の基礎を概説します。

民事執行法は、「民法・商法→民事訴訟法」に続く民事法の一連の流れの延長線上にあります。本講義を受講する学生諸君には、民法・商法、並びに、春学期開講の民事訴訟法、及び秋学期開講の倒産処理法を併せて受講することが望まれます。

【授業計画】

- 第1回 民事執行法の位置づけ
- 第2回 民事執行制度の意義と基本構造
- 第3回 執行機関と執行法上の不服申立て
- 第4回 不動産執行（1）差押え
- 第5回 不動産執行（2）売却の準備
- 第6回 不動産執行（3）買受人の法的地位
- 第7回 不動産執行（4）引渡命令
- 第8回 不動産執行（5）執行競合・配当要求
- 第9回 動産執行
- 第10回 債権執行（1）差押え
- 第11回 債権執行（2）換価・配当
- 第12回 非金銭執行（1）引渡・明渡執行
- 第13回 非金銭執行（2）代替執行、間接強制、意思表示義務
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

（1）平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、（2）講義の際に適宜実施する試験の成績とを、総合的に評価して決定します。特に平素の勉学状況を重視します。講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

【テキスト】

講義では、レジュメを配布する予定です。講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いませんが、「民事執行規則」が掲載されている六法を用意して下さい。

【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|---------|
| 民事訴訟法 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 本 間 法 之 |

【講義概要・学習目標】

民事訴訟法の判決手続について概説します。判決手続とは、訴えの提起から審理を経て判決の確定に至るまでの裁判の手続のことです。民事訴訟法に代表される手続法と、民法・商法などの実体法は、しばしば車の両輪に例えられます。実体法上の権利の保障は、その権利の実現の手続がなければ、画に描いた餅にすぎません。この意味で、手続法の学習は、実体法の学習と並んで必要不可欠であり、権利実現の鍵となる民事訴訟法を学ぶことによって初めて権利の何たるかが理解できる、といっても過言ではありません。多くの大学の法学部で民事訴訟法が必修科目とされているのはこのためです。

法律学は、実体法・手続法の双方の学習を通じて初めて理解することができるものといえます。そこで、本講義の受講生には、商法（会社法）、さらに秋学期に開講予定の民事執行法および倒産処理法を併せて受講することが望まれます。「民法・商法→民事訴訟法→民事執行法→倒産処理法」と学んで初めて民事法の全体法が理解できるのです。

【授業計画】

- (1) 訴訟の対象（訴えと請求、訴訟物）
- (2) 訴訟の開始（訴え提起とその効果）
- (3) 訴訟要件（訴えの利益）
- (4) 訴訟の主体（裁判所・当事者・代理人）
- (5) 判断対象の設定と判断資料の提出（処分権主義）
- (6) 訴訟の進行（職権進行主義）
- (7) 訴訟手続の中断・中止
- (8) 争点整理手続
- (9) 口頭弁論と弁論主義
- (10) 口頭弁論における当事者の態度
- (11) 証拠（証拠調べ・自由心証主義・証明責任）
- (12) 終局判決による訴訟の終了
- (13) 判決の効力（既判力・執行力・形成力）
- (14) 判決効の拡張
- (15) 当事者による訴訟の終了（訴えの取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解）
- (16) 複雑な訴訟（請求の複数、多数当事者訴訟、参加）
- (17) 訴訟承継
- (18) 上訴・再審
- (19) 国際民事訴訟—国際私法との交錯
- (20) 裁判外紛争処理手続（ADR）と民事訴訟

【成績評価の方法】

(1) 平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、(2) 講義の際に適宜実施する試験の成績とを、総合的に評価して決定します。特に平素の勉学状況を重視します。講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

【テキスト】

講義では、レジュメを配布する予定です。近年、重要な法改正が相次いでいますので、講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いませんが、民事訴訟規則が掲載されている六法を携行して下さい。特に、本講義とあわせて秋学期の民事執行法や倒産処理法の受講も考えている人は、民事執行規則・民事再生規則・会社更生規則など、参照が必要な規則類が掲載されているものを購入して下さい。

【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

| 科 目 名 | | | |
|------------|-------|-----|-------|
| 民俗学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 橋 内 武 |

【講義概要・学習目標】

庶民の伝承文化を観察・記述するのが民俗学である。本講では、まず民俗学とは何かという問いに答えたあと、さまざまな伝承文化について解説する。究極的には伝承文化への興味と関心を抱いて、履修生諸君が自ら身近な民俗事象への考察を進めることができるようになることをその学習目標とする。ときどき映像民俗資料の鑑賞も行う。

【授業計画】

1. 民俗学とは何か—民俗学の課題と方法
2. 人生儀礼—誕生から葬送まで
3. 年中儀礼—盆と正月
4. 俗信—予兆・卜占・禁忌・呪術
5. 民俗語彙—地名・屋号
6. 昔話—タイプと研究方法

【成績評価の方法】

期末試験による。

【テキスト】

福田浩二・福田和子編著、『日本昔話百選』、三省堂。
新谷尚紀編著、『民俗学がわかる事典』、日本実業出版社。

【参考文献】

福田アジオ他編、『講座 日本の民俗学』、全11巻、雄山閣出版。
福田アジオ他編、『日本民俗大辞典』、全2巻、吉川弘文館。
井之口章次「日本の俗信」、弘文堂。
福田浩二、「昔話の源流」、三弥井書店。

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、LE・LI生対象外
LE・LI生は学科教育科目

ま
行

| 科 目 名 | | | |
|---------|-------|-----|---------|
| 民法Ⅰ [J] | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 佐 藤 啓 子 |

【講義概要・学習目標】

民法の基本的な知識を履修し、民法の内、第一編「総則」を学ぶ。

【授業計画】

ほとんど教科書のと通りの順番で行う予定である。

【成績評価の方法】

出席と随時行う小テスト及び期末テストとする。

【テキスト】

甲斐道太郎他編『新民法概説（1）』〔第四版〕（有斐閣）及び、別冊ジュリスト『民法判例百選Ⅰ』（有斐閣）。適宜六法を持参のこと。

【参考文献】

内田貴『民法Ⅰ』（東京大学出版会）

| 科 目 名 | | | |
|---------|-------|-----|---------|
| 民法Ⅱ [J] | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 佐 藤 啓 子 |

【講義概要・学習目標】

民法の内、第二編「物権」を学ぶ。社会人としての知識がない学生にとってはわかりにくい分野だが、近代における取引の基礎になる部分なので心して学んでほしい。

【授業計画】

ほとんど教科書のと通りの順番で行う予定である。

【成績評価の方法】

出席と随時行う小テスト及び期末テストとする。

【テキスト】

甲斐道太郎他編『新民法概説（1）』〔第四版〕（有斐閣）及び、別冊ジュリスト『民法判例百選Ⅰ』（有斐閣）。適宜六法を持参のこと。

【参考文献】

内田貴『民法Ⅰ』及び『民法Ⅱ』（東京大学出版会）

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 民法Ⅲ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 田 中 志津子 |

【講義概要・学習目標】

一定の財産上の行為を請求する権利である債権の意義、目的、内容について、具体的な事例を取り入れつつ講義を進める。
債権の効力や多数当事者の債権関係等、私人間の法律関係を学ぶ上で重要な事柄の理解を目指す。

【授業計画】

債権の意義・法的性質
債権の目的・種類
債権の効力序説・現実的履行の強制
債務不履行（１）履行遅滞
債務不履行（２）履行不能
債務不履行（３）不完全履行
債権者代位権
債権者取消権
連帯債務
保証債務
債権譲渡
債務引受
債権の消滅（１）弁済・代物弁済
債権の消滅（２）供託・相殺
債権の消滅（３）更改・免除・混同

【成績評価の方法】

試験（約80％）及び授業態度等（約20％）により総合的に評価する。

【テキスト】

「民法（３）債権総論」（有斐閣Sシリーズ）野村 豊弘・池田 真朗・栗田 哲男・永田 真三郎（著）
（有斐閣；ISBN:4641159130；第3版；2005年04月発行）

【参考文献】

・民法判例百選（１）（別冊ジュリスト（No.159）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114595；第5版 版1巻（2001/09））
・民法判例百選（２）（別冊ジュリスト（No.160）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114609；第5版 版2巻（2001/10））
*理解を深めるため、上記指定教科書とは別に基本書（特に指定しない）を読むことを推奨する。
詳細は授業にて説明する。

【備考】

携帯電話の着信音は必ず切っておくこと。その他、授業の妨げになる行為を行った者は退出させる。

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 民法Ⅳ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 田 中 志津子 |

【講義概要・学習目標】

典型契約を中心に、具体的事例を用いつつ、契約という法的関係を理解することを目標とする。
また、契約関係がない場合の法的処理についても学習する。

【授業計画】

契約総論
贈与
交換
売買
消費貸借
使用貸借
賃貸借
請負
委任
雇用
組合・終身定期金・和解
事務管理・準事務管理
不当利得
不法行為
製造物責任法
消費者契約法
特定商取引法

【成績評価の方法】

試験（約80％）及び授業態度等（約20％）により総合的に評価する。

【テキスト】

「民法（４）債権各論」（有斐閣Sシリーズ）藤岡 康宏・浦川 道太郎・磯村 保・松本 恒雄（著）
（有斐閣；ISBN：4641159149；第3版；2005年6月発行）

【参考文献】

・民法判例百選（１）（別冊ジュリスト（No.159）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114595；第5版 版1巻（2001/09））
・民法判例百選（２）（別冊ジュリスト（No.160）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114609；第5版 版2巻（2001/10））
*理解を深めるため、上記指定教科書とは別に基本書（特に指定しない）を読むことを推奨する。
詳細は授業にて説明する。

【備考】

携帯電話の着信音を必ず切っておくこと。その他、授業の妨げになる行為を行った者は退出させる。

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 民法V | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 永 水 裕 子 |

【講義概要・学習目標】

この講義では、家族関係をめぐる紛争が生じた場合に、解決の基準となる民法第4編「親族」、第5編「相続」および関連諸法（家事審判法等）を取り上げる。これら諸法のしくみを把握するだけでなく、現代的問題をも取り扱うことで、家族と社会と法とのかかわりを理解してもらうよう努める。また、判例紹介を常に行うことにより、裁判における条文解釈の展開を学ぶ。

【授業計画】

教科書に沿って進める予定である。

【成績評価の方法】

期末試験および出席による。

【テキスト】

最新六法

遠藤浩他編『民法（8）親族[第4版増補補訂版]』（有斐閣双書）
遠藤浩他編『民法（9）相続[第4版増補補訂版]』（有斐閣双書）

【参考文献】

『家族法判例百選（第6版）』（有斐閣）

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|-------|
| 民法A | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 徳 野 剛 |

【講義概要・学習目標】

民法は私達の日常生活に最も関係の深い法律であり、また、民法の知識・理解はあらゆる法の知識、理解の基礎になるものである。民法の全体像を把握し、基礎知識を習得し、もって具体的事例を用いながら学習していく。判例なども採り入れていく。
総則を中心に講義を進めるが、関連、必要に応じて、物権・債権にも触れることもある。

【授業計画】

1. 序—民法とは何か
2. 民法の体系
3. 民法の基本原則と修正
4. 権利能力、行為能力
5. 成年後見制度
6. 法人の意義・種類・設立
7. 法人の組織と解散
8. 権利の客体—物
9. 法律行為の解釈
10. 法律行為の成立要件・有効要件
11. 意思の欠けつ
12. 瑕疵ある意思表示
13. 心理留保、虚偽表示
14. 錯誤
15. 代理の仕組みと機能
16. 代理権、代理行為
17. 無権代理と表見代理
18. 無効と取消
19. 条件・制限
20. 時効制度

【成績評価の方法】

原則として、筆記試験による。期末試験を重視し、出席状況、授業中の態度等を考慮する。

【テキスト】

半田正夫著『やさしい民法総則』法学書院

【参考文献】

佐久間毅著『民法の基礎1 総則』（有斐閣）

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|-------|
| 民法B | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 徳 野 剛 |

【講義概要・学習目標】

所有権を中核とする物権法は、財貨の帰属に関する中心的な法で、近代資本主義社会を成立させる基礎的な制度である。そこで、どのようにして財貨を帰属させるかが、民法にとって重要性をもつものである。この点、物権変動における意思主義、對抗要件を中心に講義を進める。物権の客体は、原則として、特定した独立の物である。その「物」に設定される担保物権にも言及する。

【授業計画】

1. 物権の本質、物権と債権の相違
2. 物権法の構造と体系
3. 物権の変動
4. 法律行為と不動産登記
5. 民法第177条における「第三者」の範囲
6. 公示の原則と公信の原則
7. 不動産登記の仕組
8. 所有権の意義、内容
9. 相隣関係
10. 共有
11. 建物区分所有
12. 用益物権
13. 占有権
14. 留置権
15. 質権
16. 抵当権の意義・機能
17. 抵当権の効力
18. 物上代位
19. 共同抵当、抵当権の処分
20. 根抵当
21. 仮登記担保
21. 譲渡担保
22. 所有権留保

【成績評価の方法】

原則として、筆記試験による。期末試験を重視し、出席状況、授業中の態度等を考慮する。

【テキスト】

伊藤進編『民法Ⅱ 物権法』北樹出版

【参考文献】

山野目章夫『初歩からはじめる物権法』（日本評論社）

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 民法入門 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 永 水 裕 子 |

【講義概要・学習目標】

私たちの日常生活に深いかわりを持つ民法の基本原則、解釈方法等を、事例を通じて学んでいく。基礎的な法解釈技術を身につけることによって、以後の法律学学習へつなげたい。

【授業計画】

教科書に沿って進める予定である。事例紹介を中心とした補助レジュメを毎回配布する予定である。

【成績評価の方法】

期末試験、小テスト、出席による。

【テキスト】

最新六法
森泉章編『入門民法[第3版]』（有斐閣ブックス）

【参考文献】

講義の際に紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|-------|
| 文字・表記論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 02 | 秋学期 | 2単位 | 藤 原 健 |

【講義概要・学習目標】

言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合はどうなっているのか、内閣告示された基準をもとに考えていく。

日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。例えば、平仮名ひとつとっても、「こんにちわ／こんにちは」「そのとうり／そのとおり」「ぬのじ／ぬのぢ」のどちらの表記が正しいか、自信を持って言えるだろうか。

外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。

【授業計画】

1. 日本語の表記法と基準

- 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）
- 2) 平仮名の表記法（「現代仮名遣い」）
- 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）
- 4) 送り仮名の付け形
- 5) ローマ字の種類と表記法

2. 文字に関する知識

- 1) 漢字の成り立ち（六書、部首、画数、字形等）
- 2) 仮名の成り立ち（真名、平仮名、片仮名等）

【成績評価の方法】

定期試験（半期科目であるので、秋学期1回）により評価する。詳しくは、授業初回に説明する。

【テキスト】

富田隆行・真田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック（2）新・表記』（国際交流基金／凡人社）

【参考文献】

清水義昭（編）『概説 日本語学・日本語教育』（おうふう）

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|---------|
| 野外レクリエーション実習 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 石 田 易 司 |

【講義概要・学習目標】

組織キャンプを素材に、障害者、高齢者、児童などの福祉対象者への野外活動指導の理論と技術を身につける。

施設などの福祉現場に出た時に役に立つ人材になれるよう、教室内での受け身の授業で終わらず、積極的に野外に出て、安全やプログラム運営技術、グループワークの体験ができるよう、実習も行う。

【授業計画】

- ①福祉におけるレクリエーションの現状と課題
- ②組織キャンプの理解
- ③キャンプの対象とプログラム
- ④個々のプログラムの運営と指導
- ⑤キャンプ実習
- ⑥救急法実習
- ⑦キャンプと福祉対象者
- ⑧記録と評価

【成績評価の方法】

出席点と期末のレポート

【テキスト】

「CAMPING FOR ALL」（エルピス社）

【参考文献】

「いきいき高齢者キャンプ」（朱鷺書房）

「高齢者レクリエーション指導の手引き」（朝日新聞厚生文化事業団）

「痴呆性老人とキャンプ」（朱鷺書房）

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| ヨーロッパ経済論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 棚 池 康 信 |

【講義概要・学習目標】

この講義ではヨーロッパの経済統合（EU）について論じてゆく。EUは共通通貨ユーロの紙幣とコインが発行され、従来の国民通貨はすでに姿を消している。この共通通貨の導入は、ヨーロッパ各国の市場が一体化し、ヨーロッパ企業がヨーロッパ市場を単一のものとして行動しつつあることが前提となっている。また、経済政策も多くの分野で共同体やECB（欧州中央銀行）に権限が移されている。このようにEUは経済統合の面ではきわめて高い段階に到達しており、さらにそのディメンションは政治統合から、市民的統合の側面を加えつつある。また2004年には、中東欧諸国を中心に10カ国が新たに参加し、ヨーロッパの一体的空間はさらに経済的・政治的重要性を高めている。しかしながら昨年は、EU基本法（憲法）の批准に失敗し、大きくつまづくことになった。このようなヨーロッパ経済統合の現状を理解することがこの講義の課題である。ユーロを導入したヨーロッパ経財の現状は実に興味深い、単なる現状理解にとどまらず、統合の歴史的過程と国際経済環境の中に、EU経済の現状を立体的に位置付けることを目標とする。

【授業計画】

前期

市場統合とユーロの導入

1. 2005年のEU；一つの挫折
2. 経済統合論とEU
3. 市場統合と地域政策
4. 市場統合と経済通貨同盟
5. 92年市場統合
6. マーストリヒト条約とEU
7. ユーロの導入階
8. 経済通貨同盟の機能と運用

後期

経済通貨同盟のディメンション

1. 92年市場統合の意義
2. 単一欧州議定書
3. 統合の再出発と地域政策
4. 市場統合と域内貿易・直接投資
5. 経済通貨同盟段階の共同市場
6. 市場統合の現状
7. 市場統合とEUの経済ガバナンス
8. 2006年のEU

【成績評価の方法】

前期・後期末の試験によるが、経過によっては授業中の小テストを実施する。

【テキスト】

棚池康信『EUの市場統合』見洋書房

【参考文献】

- 田中素香他『現代ユーロ経済』有斐閣
 島野卓爾他編『EU入門』有斐閣
 清水貞俊『欧州統合への道』ミネルヴァ書房
 内田勝敏・清水貞俊編著『EU経済論』ミネルヴァ書房
 田中素香編『現代ヨーロッパ経済論』有斐閣
 田中友義編『ヨーロッパ経済論』ミネルヴァ書房

| 科 目 名 | | | |
|-------------------|-------|-----|---------|
| ヨーロッパ文化研究－西洋中世文学史 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 米 山 喜 晟 |

【講義概要・学習目標】

この授業は、ヨーロッパ中世の文学の概説にあてる。だがその前に、当時の書物とはどんなものだったかを、紙や筆記用具の歴史などとともに簡単に眺めておく。また古代ローマ文学の遺産として、ゴート族の支配下のポエティウスの『哲学の慰め』などにも触れて、古代との連続性をも考えたい。それから年代記や歴史の類いをいくつか眺めた後、『ローランの歌』に代表される叙事詩をはじめトロバドゥールの代表的叙情詩、修道院文学の代表『アベラールとエロイズ』、そして『バラ物語』、ファブリヨールから『神曲』、ペトラルカ、そしてイタリア・ノヴェッラやフランソワ・ヴィヨン、チョーサーなど、翻訳の抜粋、時には英訳などを用いて具体的に西洋中世の文学史をたどっていく。

【授業計画】

本の歴史と紙や筆記用具について3～4時間、神話や西欧の古い歴史、年代記2～3時間、叙事詩3～4時間、叙情詩2～3時間、修道院文学2～3時間『バラ物語』等1～2時間、ファブリヨールとイタリア・ノヴェッラ3～4時間、ダンテ、ペトラルカ、ヴィヨン、チョーサーなど3～4時間

【成績評価の方法】

出席点と二度のレポートによる評価。今年はずらびたびテキストを輪読してもらるので、出席点を重視したい。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献】

筑摩書房：世界文学大系65 中世文学集、同66 中世文学集2

| 科 目 名 | | | |
|---------------------|-------|-----|----------|
| ヨーロッパ文化研究－フランス文化の諸相 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | アニー ヤマサキ |

【講義概要・学習目標】

きょう現在のフランス人のライフスタイルや思考傾向などについて色々なアスペクトを通して説明いたします。

【授業計画】

●個人としてのフランス人

- 1 ■自分の外観をどのように意識しているか
 - 1 フランス人は自分の身体をどう把握しているか
 - 2 フランス人の身長と体重
 - 3 身体の手入れ
 - 4 フランス人のふくそう
- 2 ■フランス人の礼儀作法（1）
 - 1 昔と今の事情
 - 2 あいさつについて
 - 3 きほん的なれいぎ
 - 4 時間感覚について
 - 5 でんわのマナー
 - 6 ざつおんについて
- 3 ■フランス人の礼儀作法（2）
 - 7 人の家を訪問するばあい
 - 8 招待された時のマナー
 - 9 ほめ方
 - 10 レストランでのマナー
 - 11 お金についての考え方
 - 12 マナーと生方の美学
 - 13 今のフランス人たちのマナーにかんする自己点検

●フランスの家族

- 4 ■男女のあり方
 - 1 けっこんじじょう
 - 2 カップル生活
 - 3 りこんじじょう
- 5 ■若者たち
 - 1 出生率
 - 2 15才みまんの子供たち
 - 3 15才から25才までの若い人々
 - 4 親子関係
- 6 ■日常生活（1）
 - 1 住宅事情
- 7 ■日常生活（2）
 - 2 食生活
- 8 ■日常生活（3）
 - 3 交通しゅだん
 - 4 ペットについて

●フランスの社会

- 9 ■社会生活（1）
 - 1 社会構成
 - 2 外国人
- 10 ■社会生活（2）
 - 3 社会環境
 - 4 治安と犯罪
- 11 ■価値観（1）
 - 1 今の価値観
- 12 ■価値観（2）
 - 2 信仰と宗教
 - 3 環境意識

●仕事とレジャー

- 13 ■就労人口
 - 1 仕事に対するイメージ
 - 2 就職状況
 - 3 失業問題
- 14 ■ひまな時間とヴァカンス（1）
 - 1 ひまな時間とお金について
 - 2 ひまについてのフランス人の考え方
 - 3 ひまのすごし方
- 15 ■ひまな時間とヴァカンス（2）
 - 4 ヴァカンスについてのフランス人の考え方
 - 5 冬休み

●その他いろいろ、さまざまです。

【成績評価の方法】

平常点と期末試験で評価します。

【テキスト】

講義でございますので、ヨーロッパ大学なみにテキストがありません。⇒参考書をみること。（ひつようのある学生が）

【参考文献】

- 「現代フランス情報辞典」（増補版）草場安子 大修館 2001年
- 「フランス新・男と女」 ミュリエル・ジョリヴェ/鳥取絹子 訳 平凡社 2001年
- 「知っていそうで知らないフランス」 安達功 平凡社 2001年
- 「フランスの知恵と発想」 小林善彦 白水社 1992年

| 科 目 名 | | | |
|------------|------|-----|---------|
| リハビリテーション論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 奥 田 邦 晴 |

【講義概要・学習目標】

障害者が豊かな生活を営んでいく上で、リハビリテーションアプローチは非常に重要なプロセスであり、適切な時期に実施され、また、必要最小限に時間を限定したものでなくてはならない。ノーマライゼーション社会の構築を目標に、このリハビリテーションを包括的な視点からとらえ、保健-医療-福祉の一体化を押し進めていくことを目標とする。

特に社会福祉士資格取得をめざしている人にとって、あるいは何らかのかたちで障害者とかかわる機会のある人は、このリハビリテーション論を通して、主として医学的な側面からであるが、障害についての理解を深めていただきたい。代表的な疾患を取り上げ、それぞれの障害やリハビリテーションアプローチについて解説する。

【授業計画】

- 1- 2. リハビリテーション総論
- 3- 6. 障害と評価（脊髄損傷、脳卒中、脳性麻痺その他）
7. 各種専門職種
- 8- 9. 疾患・病態からみたリハビリテーションの実際
- 10-11. 補装具
12. リハビリテーション工学
13. 障害者のスポーツ
14. 地域ケア
15. その他

【成績評価の方法】

筆記試験

【テキスト】

特に定めない

【参考文献】

障害者の人権とリハビリテーション／高橋 流里子／中央法規

【備考】

- ・遅刻をしないこと。講義中は脱帽のこと。携帯メール等は禁止します。
- ・障害について真摯に学びたい人は受講して下さい。一緒に考えていきましょう。できるだけ前に座って下さい。

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 流通論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 春学期集中 | 4単位 | 岸 本 裕 一 |

【講義概要・学習目標】

流通とは、生産と消費という2つの経済活動の間に存在する懸隔（隔たり）を架橋する経済活動である。流通論は、この流通を分析対象として、これを国民経済的視点から論ずるものである。そのうえで、近年特に、大切になってきているのは、地球的規模での流通を考える視野を持つことであり、かつまた、時代の要請に応えるべく、フロンティア精神でもって思考構築を行なうことであろう。そこで、この講義の学習目標を要約していえば、建学の精神にいう世界の市民としての視点から、新世紀の流通・マーケティングの最前線を理解することということになる。

さて、講義内容は、講義計画に示すように多岐にわたるが、その一部を紹介する。まずはじめに、世界経済のトレンドと流通や、流通論の範囲と対象などの概論を学んだ後、各論に入る。まず、教科書2を用いつつ、ブランド論・販売促進論を講義する。販売促進の1つであるテレビCMは、現代社会を映す鏡であることを踏まえたい。また、フロンティア産業としてのエンターテインメント・ビジネス論が興味深い。教科書1を用いつつ、音楽ビジネス・マーケティングの展開やギャンブル産業・マーケティングの新展開、特にカジノ開設の是非などに触れていきたい。ビデオやCD等を駆使しながら、わが国独特のこの状況も含めて、リアルタイムに動くもの取り入れていくつもりである。

【授業計画】

1. 世界経済のトレンドと流通
2. 流通論の範囲と対象
3. 地域振興と流通
4. ブランド論
5. 販売促進論
6. フロンティア産業としてのエンターテインメント・ビジネス論
 - 1) 音楽ビジネス・マーケティングの展開
 - 2) ギャンブル産業・マーケティングの新展開（カジノ開設の是非）
7. 今後の流通の展望

——地域経済と世界経済——

【成績評価の方法】

定期試験の点数と、平常提出物の評価と、授業での参加と貢献、出席頻度などを総合的に評価して行なう。

【テキスト】

進行に従い指示する。

【参考文献】

進行に従い指示する。

や
ら
行

| 科 目 名 | | | |
|------------|-------|-----|-------|
| 流通論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 秋学期集中 | 4単位 | 隅 田 孝 |

【講義概要・学習目標】

流通とは生産と消費を架橋する経済的、社会的活動を意味する。従来、流通は生産―仲介―消費という流れを基本として行われていた。また、流通の形態は産業ごとに多様であり、複雑なものである。たとえば、ある産業では仲介業者が重層的に介在する流通システムが確立されている。

今日では、インターネットの普及により流通の様相が大きく変化してきている。製品のカスタマイゼーションや B to B、B to C、C to C 取引に見られるように、流通システムは進化の過程にあるといつてよいだろう。

本講義では、流通の基本概念を理解した上で、マーケティング論におけるブランド、消費者行動、インターネット・マーケティングなど流通と密接にかかわりをもつトピックを取り上げ、流通システムの進化について理解していく。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 流通システムの基本概念
3. 市場の概念
4. 製品・販売促進・価格・流通チャンネル
5. ブランド
6. 消費者ニーズ
7. 消費者行動
8. 消費文化
9. インターネット・マーケティング
10. ブランド・コミュニティ
11. まとめ

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、理解度確認テスト、期末試験により総合的に評価する。

【テキスト】

隅田孝著『若者市場論 ～若者消費者行動と若者市場マーケティング～』、創成社、近刊予定。

【参考文献】

(社)日本マーケティング協会(編)『マーケティング・ベーシックス』第二版、同文館、2001年。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、B生対象外
B生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|---------|
| 臨床心理学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 岡 井 哲 明 |

【講義概要・学習目標】

「臨床心理学」とは、心の健康を失いバランスを崩している人(疾病等を含む)に対する心理学的な治療実践から生まれた体系であり学問である。元々、人間の行動を科学する学問である「心理学」から派生した分野であり、生涯(ライフサイクル)にわたる人間を対象としている。その意味では、非常に広い範囲を領域として取り扱っている。

現代は、複雑な社会である。私たちを取り巻く環境の変化は目まぐるしく、日々日常的に現れては繰り返される。様々な数多くの理解を超える出来事(人間の引き起こす)は、私たちの心に関連している故に、不安を一層大きくしている。一人一人が心の置き場をどこに求めれば良いのか分からなくなりつつある。このようなことに対応することも臨床心理学の一部である。

本講義では、臨床心理学の幅広い体系的な総論から各論までを取り扱うが、特に、無意識の概念を導入し、人間を無意識を含めた自律的な機能の総体としてとらえる「精神分析療法」を中心に展開する。

必要に応じて、具体的な事例や社会現象等もまじえ、人間の心に対する理解を深め、悩める人への援助についても触れる。受講者自身が今まで以上に、自分について、また、人に対する関心を増し、今後の援助関係に役立てる契機となれば幸いである。

【授業計画】

1. 臨床心理学とは
2. 臨床心理学の歴史
3. 代表的な治療技法
 - ①精神分析療法
 - ②ユングの分析療法
 - ③行動療法
 - ④クライアント中心療法
 - ⑤ゲシュタルト療法
 - ⑥その他
4. 集団療法と家族療法
5. 精神医学的診断
6. アセスメント(心理査定)
7. 臨床心理学的地域援助

【成績評価の方法】

出席及び学年末試験(論述)の成績を最終的な評価とする。その他レポートを求める場合も有。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

随時、講義の中で参考図書については紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|------------|------|-----|---------|
| 倫理学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 木 下 昌 巳 |

【講義概要・学習目標】

この講義では、「生命倫理」にかかわるテーマを中心として取り上げ講義をおこなう。「生命倫理」とは、倫理学のなかでは比較的新しい一分野であり、安楽死・臓器移植・クローン人間といった従来の技術では考えられなかった事柄を倫理的側面から考察する目的で生まれた学問である。クローン人間の製作やヒトゲノムの解析といった最新の技術が提起するさまざまな問題は、日常生活のなかで問われることなく自明のこととしていたさまざまな価値観をあぶり出し、そこでわれわれはあらためて、自らの価値観を問われることになるであろう。本講義では、これらの複雑な問題の論点を整理し、考察の糸口を探っていくことにする。

【授業計画】

前期は、生命倫理にかかわる諸問題をいくつか取り上げる。インフォームド・コンセント、臓器移植、クローン人間、代理出産などのテーマを順に論じていく予定。後期は、生命倫理という枠を超えて、倫理的な問題に関わる現代のトピックをいくつか取り上げ、検討するつもりである。

【成績評価の方法】

学期末試験による。

【テキスト】

とくに指定しない。

【参考文献】

加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療 バイオエシックスの練習問題』（PHP新書）

| 科 目 名 | | | |
|------------------|-------|-----|---------|
| 歴史学—アジア I | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 深 見 純 生 |

【講義概要・学習目標】

海のシルクロードの歴史をあとづける。
海から歴史を見ると同時に史料を読むという、ちょっと欲張った内容である。海から歴史を見ることで、無意識のうちに陸中心になっている私たちの歴史観を反省する手掛かりになることを期待している。あわせて、具体的な史料を取り上げることによって、史料の背景、史料の読み方、史料の解釈など歴史学の方法の基礎的なことがらにも触れる。

地域的には東南アジアを中心に扱う。そこには地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が交易世界と結びついて、典型的な海域アジア世界が成立した。時間的には2000年前の始まりから、ヨーロッパ勢力がアジア海域世界に登場するまで、つまり15世紀までを扱う。この間の、東南アジアを中心とする交易システムの形成とその変化をあとづけることになる。

いわゆるノート講義であるが、テキストに指定した資料集が必携である。

視覚的な理解のためビデオ資料も用いる。

【授業計画】

1. 序論—海域アジア世界論—島の熱帯・モンスーン航海・海圏・海域社会
2. モンスーン航海以前—「漢とローマ」から扶南の世紀まで
3. モンスーン航海の確立とインダスの国家の成立
4. マラッカ海峡交易帝国の隆盛—シュリーヴィジャヤとシャイレンドラ
5. 交易帝国の展開
6. 中国船の進出と南海交易の繁栄
7. 鄭和の大航海とムラカの世紀（15世紀）—交易とイスラム化

【成績評価の方法】

時々的小レポートと期末試験を総合して評価する。

【テキスト】

いわゆるノート講義であるが、次の資料集が必携である。
深見純生編『資料集 歴史学—アジア I 海のシルクロード史を読む』（生協で販売）

【参考文献】

辛島昇・大村次郷『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社 2000〔桃園A292.09〕
長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989〔桃園A209〕
藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982〔桃園A209〕
家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993〔桃園A225.9〕

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|---------|
| 歴史学－イタリア近現代史 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 米 山 喜 晟 |

【講義概要・学習目標】

この授業では、17世紀に歴史のどつぼ（最低の状態）に陥っていたイタリアが、次第に力を取り戻し、リソルジメント時代にイタリア語圏をほぼ統一した後、二度の世界大戦やファシズムなどいろいろな曲折を経て今日に至った過程を講義する。あわせてそれ以前の栄光にも触れないわけにはいかないし、EUに加わった今日のイタリアが抱えるいろいろな問題にも触れておきたい。3年生以上で私のゼミを取っている人はぜひ取っていただきたい。

【授業計画】

全授業の回数を28回とすると、最初の3分の1を過去の2度の栄光、ローマとルネサンスの時代にあてる。続く3分の1をリソルジメントによるイタリア統一とその影響にあてる。残った時間で統一後のイタリア、世界に先駆けて現れたファシズムや世界大戦、そして王国から共和国に生まれ変わったイタリア、さらに第二次共和制とよばれる現在のイタリアが抱える諸問題にあてたい。

【成績評価の方法】

1. まず話を聞いてもらうために出席を重視する。
2. レポートで関心の深い問題を追及していただく。
3. 基本的な事件や人物や年号などをリストアップして提供し、その範囲で期末に試験をおこなう。
4. 以上の3点を総合して評価する。

【テキスト】

米山が作製した『イタリア地方文化理解のための歴史年表』を適宜コピーして配布する。

【参考文献】

森田鉄郎・重岡保郎著『イタリア現代史』（山川出版社）
 プロカッチ著、斉藤・豊下訳『イタリア人民の歴史』I・II（未来社）
 藤澤道郎著『物語 イタリアの歴史』I・II（中公新書）

| 科 目 名 | | | |
|-----------------|-------|-----|-------|
| 歴史学－浮世絵の社会＝文化構造 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 佐 賀 朝 |

【講義概要・学習目標】

本講義では、何人かの著名な浮世絵師の作品を取り上げ、日本の民衆文化を多彩な形で創造した近世（江戸時代）の巨大都市・江戸の社会＝文化構造を解き明かす。文化の表層をなぞるのではなく、文化をつくり出す基礎となった社会そのものの構造にもメスを入れる形で「江戸」の文化創造力の源泉に迫りたい。

この講義では、まず歌麿・写楽・北斎などの作品について、作品論的な観点から考察をくわえる。その上で、彼らの作品を成立させた社会的な背景を探るべく、浮世絵の画題となった江戸の多様な社会＝空間や文化現象について論じていく。具体的には、芝居興行、遊廓、両国（盛り場）、講中、町火消、若者仲間などを取り上げる。

こうした作業を通じて、日本文化を社会史的な観点から研究していく方法を学ぶとともに、社会構造分析と結びついた文化研究の新しい可能性を探っていきたい。

【授業計画】

写楽の役者絵と芝居の世界

写楽の第一期作品について／寛政期の芝居興行と江戸・上方／芝居地の社会構造

広重名所絵の虚像と実像

広重名所絵の虚構性／両国一名所の社会構造－

歌麿の美人画と吉原

歌麿「北国五色墨」について／新吉原と仮宅

北斎「富嶽三十六景」と江戸の富士信仰

北斎の作画変遷と「富嶽三十六景」／江戸の講中

国芳と江戸の民衆世界

奇想の絵師・国芳／町火消と若者仲間

浮世絵の社会＝文化構造

錦絵の毒素／錦絵をめぐる社会構造

【成績評価の方法】

出席・受講態度、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

浅野秀剛・吉田伸之編『浮世絵を読む』1～6

（朝日新聞社、1997～98年）

ただし、購入しなくてもよい。

【参考文献】

吉田伸之『身分的周縁と社会＝文化構造』

（部落問題研究所、2003年）

その他、授業のなかで随時、提示する。

| 科 目 名 | | | |
|-----------|-------|-----|---------|
| 歴史学－神話と歴史 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 梅 山 秀 幸 |

【講義概要・学習目標】

『古事記』『日本書紀』に書かれた神話および応神天皇以前の記述は、津田左右吉以来、実際の歴史とはなんらかかわりのないものとされ、切り捨てられることを余儀なくされた。天孫降臨の神話も、神武東征の物語も、倭建命の出雲や熊襲や蝦夷への派遣の物語も、あるいは神功皇后の朝鮮半島への出兵の物語も、荒唐無稽として排除される。しかし、そこに大和朝廷および日本の成り立ちが刻印されているのではないか。なぜ、『古事記』『日本書紀』が八世紀の初頭に書かれなければならなかったのかを考えながら、現在の世界の神話学を踏まえつつ、個々の神話や物語の持つ意味を考えていきたい。

【授業計画】

- 1、『古事記』『日本書紀』の神話
- 2、朝鮮半島の神話
- 3、レヴィ＝ストロースの神話学
- 4、デュメジルの神話学
- 5、本居宣長の業績
- 6、津田左右吉の業績
- 7、天孫降臨の神話
- 8、神武東征の物語
- 9、倭建命の征服の旅
- 10、神功皇后と朝鮮半島

【成績評価の方法】

試験による。出席も考慮します。

【テキスト】

『古事記』（岩波文庫）

| 科 目 名 | | | |
|----------|-------|-----|---------|
| 歴史学－日本 I | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 春学期集中 | 4単位 | 生 瀬 克 己 |
| 02 | 秋学期集中 | 4単位 | |

【講義概要・学習目標】

徳川の270年余は、平和な時代であったと同時に、それなりに「近代化」のための条件は育っていた。しかし、現実の「近代化」の過程では、それらを生かしきれないままに「富国強兵」の道を歩む。そして、その道は「15年戦争」へと帰着してしまう。この「戦争」への反省のうえに立っての「平和憲法」と「経済立国」の時代が「戦後」ということになる。徳川期から近現代にかけての歴史的な流れを大枠として理解してもらるのが「狙い」である。

【授業計画】

1. この講義の「狙い」と目標
2. 太平洋戦争の理解をめぐる日米の相違
3. 日本が「富国強兵」をかかげた理由と背景
4. もうひとつの「近代化」－徳川社会の可能性
5. まとめ

【成績評価の方法】

講義中のレポート（数回、30%）と期末テスト（70%）で評価する。

【テキスト】

特には指定しない。

【参考文献】

必要に応じて指定する。

ら
行

| 科 目 名 | | | |
|-------------------|-------|-----|---------|
| 歴史学－日本の戦後史 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 梅 本 哲 世 |

【講義概要・学習目標】

戦後60年を迎えた世界と日本はいま大きな困難と課題に直面している。環境破壊、貧困、失業、テロと戦争など、解決すべき多くの問題が存在する。21世紀に生きる私たちは、20世紀の歴史を深く学んでこのような諸問題の解決に立ち向かう必要があるだろう。

この講義では第2次大戦後に日本がたどった道を振り返って、現在を見つめ、未来を展望することを目標としている。敗戦と新憲法の制定、経済の復興、日米安保条約の締結、高度経済成長、自民党一党支配の継続、ベトナム戦争、オイルショック、ロッキード事件、湾岸戦争、バブル経済の発生と崩壊、イラク戦争、小泉内閣の成立、など現在に至る主な政治・経済・社会の動きを世界の動きと関連させて取り上げる。

歴史に関心をもっている諸君と一緒に、日本の過去・現在・未来について考えてみたい。

【授業計画】

1. 占領と戦後改革
2. 日本国憲法の制定
3. 単独講和と安保条約
4. 1955年体制の成立
5. 高度経済成長の開始
6. ベトナム戦争
7. 沖縄返還と日中国交回復
8. 「日本列島改造論」とオイルショック
9. ロッキード事件と保守政治
10. プラザ合意と円高不況
11. バブル経済の発生
12. 湾岸戦争と「国際貢献」
13. バブル経済の崩壊と「失われた10年」
14. 新国家主義の台頭
15. 9・11同時多発テロとイラク戦争
16. 小泉内閣の登場と「構造改革」
17. 憲法改正問題
18. 戦後とは何だったのか

【成績評価の方法】

学期末試験の成績により評価する。
講義の区切りに感想を書いてもらい、講義の改善と成績評価の参考にする。

【テキスト】

中村政則『戦後史』（岩波新書）

【参考文献】

授業中に適時指示する。

| 科 目 名 | | | |
|--------------------|-------|-----|---------|
| レクリエーションワーク | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 弘 中 陽 子 |

【講義概要・学習目標】

すべての人が地域の中で、いきいきと豊かに生活をする上で、レクリエーションの重要性が言われています。生活とレクリエーションの関連性を踏まえた上で、「よりよい生活」「豊かな生活」について考えていきます。また、レクリエーション援助者として、福祉サービス利用者に応じたレクリエーション活動の援助の方法や技術を実践的展開の中で、修得することを目的とします。

【授業計画】

- ①オリエンテーション（授業の内容、進め方等の説明）
- ②レクリエーションの基本的理解
- ③福祉領域におけるレクリエーションの考え方
- ④生活の中のレクリエーション
- ⑤ホスピタリティトレーニング
- ⑥レクリエーション援助の考え方
- ⑦レクリエーション援助プロセス
- ⑧対象者に応じたレクリエーション援助計画を考えるⅠ
- ⑨対象者に応じたレクリエーション援助計画を考えるⅡ
- ⑩対象者に応じたレクリエーション援助計画を考えるⅢ
- ⑪考えたレクリエーション援助計画を発表するⅠ
- ⑫考えたレクリエーション援助計画を発表するⅡ
- ⑬考えたレクリエーション援助計画を発表するⅢ
- ⑭レクリエーション援助者として・・・
- ⑮これからの福祉レクリエーションについて考える

【成績評価の方法】

この授業では、自分自身で「感じ、考える」ことが重要と考えています。よって、一方的な講義形式ではなく、受講生一人ひとりが主役となるよう演習的形式で展開します。お互いよい授業となるよう取り組んでいきましょう。次の3点を総合的に評価をします。①平常点（出席、主体的、積極的な受講態度） ②提出物（課題等も含む） ③授業内の発表等

【テキスト】

長尾正子・石田易司著「長尾正子の介護レクリエーション」エルピス社、2005

【参考文献】

石田易司著「アイスブレイク」エルピス社、2001

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|-------|
| 連結会計論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 柴 理梨亜 |

【講義概要・学習目標】

単独企業の財務諸表に代わってグループ企業の連結財務諸表が主役になった今、本講義ではその連結財務諸表について学びます。例えば、はなぜそのような連結財務諸表が必要なのか、その制度とはなにを目的としているのか、その財務諸表の構成は、などを理解するのが目的である。本講義を受講するにあたって、簿記と財務諸表の基礎知識が不可欠である。

【授業計画】

1. 証券取引法に基づく情報開示制度
2. 連結決算制度
3. 連結貸借対照表
4. 連結損益計算書
5. 連結剰余金計算書
6. 連結キャッシュ・フロー計算書
7. 連結財務諸表の注記事項
8. 連結の範囲と基準

【成績評価の方法】

出席、平常点と期末テストを総合的に評価する

【テキスト】

新日本監査法人（著）「図解早わかり 連結決算書入門」、BSIエデュケーション

練習問題も必要に応じてプリントして配布する

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|-------|
| 労使関係論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 上 田 修 |

【講義概要・学習目標】

政・労・使をその制度主体とする労使関係制度は、小さな政府、労働組合組織率の長期的低下傾向、さらにアメリカにおけるニューエコノミーの成功に基礎づけられた株主主権論の擡頭によって、その基盤を大きく揺るがせられようとしています。日本もその例外ではありません。労使関係は、雇用、賃金、処遇といった働く人びとの生活に密接に関係する事柄がどのような制度的枠組みにおいて決められるのか、またそのプロセスにおける各国の特徴とは何かといった問題に焦点をあてるものです。このことをとおして、人びとの暮らしのあり方を考えようとしています。例えば、現在、問題となっているフリーターの増加に象徴される若年層の雇用、中高年層のリストラ、主婦層を中心とするパートの増大といった各種の雇用問題は労使関係とどのような結びつき、関わりがあるのでしょうか。この授業では、労使関係という視点から雇用を中心とする労働世界の変容を取りあげ、考察します。

【授業計画】

- 1 労使関係とは何か
- 2 働く世界の変容
- 3 労使関係制度の枠組み
- 4 日本的労使関係とその変容
- 5 企業と労使関係の将来

【成績評価の方法】

学期末試験の成績で評価します。

【テキスト】

使用しません。ただし、講義内容の概略（レジュメ）を配布します。

【参考文献】

講義概要（レジュメ）で指示します。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|-------|
| 老人福祉論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 坪 山 孝 |

【講義概要・学習目標】

- 1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解させるとともに、老人福祉の社会的背景について理解させる。
- 2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解させる。
- 3 老人の福祉需要の把握方法について理解させる。
- 4 老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法を含む）とサービスの体系について理解させる。
- 5 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解させる。
- 6 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
- 7 老人のための地域及び住環境の歳暮と福祉用具について理解させる。
- 8 老人に対する相談援助活動について理解させる。

【授業計画】

- 1 高齢社会と老人
 - 1) 老化と老人
 - 2) 家族と老人
 - 3) 社会と老人
- 2 現代社会と老人福祉
 - 1) 老人福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
 - 1) 老人福祉法
 - 2) 介護保険法
 - 3) 老人保健法及びその他の関連法規
- 5 老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス
- 6 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
- 7 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 8 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域と住環境の整備（バリアフリー）
 - 2) 福祉用具
- 9 老人に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動尾をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【成績評価の方法】

授業時に課すレポート及び試験による

【テキスト】

高齢者福祉 第一法規出版

【参考文献】

老人福祉論 社会福祉学習双書 全国社会福祉協議会 2005年
国民の福祉の動向 厚生統計協会

他にも授業中に適宜紹介する

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|---------|
| 労働経済論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 春学期集中 | 4単位 | 吉 田 恵 子 |

【講義概要・学習目標】

本講義の目標は、労働経済の知識を理解することと、自身が「働く」ことを実感として捉えられるようになることである。出来る限り数式を使わずに労働経済のトピックを紹介する。講義はテキストに沿って進めるが、理解の促進のため適宜レジュメを配布する。受講する学生の年齢を考慮して、若年をめぐる雇用問題に重点をおいた講義を目指す。なお授業中の私語、携帯電話の使用は厳禁とする。

【授業計画】

以下のトピックをもとに講義を進める。
 イントロダクションー芸能人の給料はいくら？ー
 いろいろな働き方ーサラリーマン、自営業者ー
 日本の労働市場ー労働時間、賃金、失業ー
 賃金格差
 教育・訓練
 離職・転職ー人が仕事をやめるときー
 若年をめぐる雇用問題1ーフリーター、ニート、7・5・3離職ー
 若年をめぐる雇用問題2ー新卒労働市場、ジョブカフェー
 女性、高齢者をめぐる雇用問題
 賃金と雇用の決まり方ー労働供給、労働需要ー
 高失業の経済学
 まとめ

【成績評価の方法】

中間試験20点と期末試験80点。万が一、中間試験を受けられなかった場合でも、期末試験で60点以上取ることが出来れば単位を取得することが出来る。

【テキスト】

「労働経済学入門」太田 聡一（著），橘木 俊詔（著）有斐閣

【参考文献】

「労働経済学入門 日経文庫ー経済学入門シリーズ」大竹 文雄（著）日本経済新聞社
 「働く過剰 大人のための若者読本 日本の現代に」玄田 有史（著）NTT出版

【備考】

社会学部生は対象外

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|---------|
| 労働経済論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 4単位 | 大 西 祥 恵 |

【講義概要・学習目標】

大学卒業後、企業に入るつもりであろうとなかろうと、みなさんが社会に出るにあたって日本の労使関係や労働市場の特徴について理解しておくことは重要だといえよう。というのも、日本社会は「企業社会」と呼ばれ、企業の「目的や行動原理が個人や社会のそれに優先し（国民生活審議会）」ているといわれているからである。本講義では、大企業、公企業、中小企業における労使関係や労働条件に加えて、性別や国籍の違いによって就業状況にどのような特徴がみられるのかという点についても学んでいく。

【授業計画】

1. 日本の生産主義と労働者 (1) 日本の生産主義
2. 日本の生産主義と労働者 (2) 外圧と生産主義
3. 日本の生産主義と労働者 (3) 規制緩和と生産主義
4. 大企業における労働者 (1) 「日本的経営」と労働問題
5. 大企業における労働者 (2) フレキシビリティと労働問題
6. 大企業における労働者 (3) 「自発」調達のメカニズム
7. 公企業における労使関係 (1) 公共部門の特徴
8. 公企業における労使関係 (2) 国鉄民営化
9. 公企業における労使関係 (3) 電電公社民営化
10. 公企業における労使関係 (4) 郵政制度の変革
11. 中小企業における労働者 (1) 中小企業の類型
12. 中小企業における労働者 (2) 下請製造業
13. 中小企業における労働者 (3) 新たな展開
14. 女性労働者 (1) 労働力の女性化
15. 女性労働者 (2) 積極的女子労働力政策
16. 女性労働者 (3) 男女雇用機会均等法の制定と改正
17. 女性労働者 (4) 労働と生活のバランス
18. 外国人労働者 (1) 歴史
19. 外国人労働者 (2) オールドカマーの労働問題
20. 外国人労働者 (3) ニューカマーの労働問題
21. 外国人労働者 (4) 日本における外国人政策
22. 日本型福祉国家 (1) 企業中心社会と社会保障制度
23. 日本型福祉国家 (2) 企業中心社会と家族政策
24. 日本型福祉国家 (3) 日本型福祉国家の明暗

【成績評価の方法】

定期試験、講義中におこなう小テスト、出席状況および出席態度などにて評価する。

【テキスト】

戸塚秀夫・徳永重良編著『現代日本の労働問題<増補版>』ミネルヴァ書房、2001年（本体3500円＋税）。

【参考文献】

講義中に指示することがある。

【備考】

<02～06生>

社会学部生のみ対象

SSは学科選択科目、SWは随意として履修

| 科 目 名 | | | |
|------------|------|-----|---------|
| 労働法 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 石 田 信 平 |

【講義概要・学習目標】

労働法とは働く場を規制する法律であり、労働基準法、労働組合法、育児介護休業法、男女雇用機会均等法、パート労働法など、多様な法律を包含するものである。このような「働き方」を規制する労働法は、現実社会における人の生活に大きな影響を及ぼしている。

本講義の目的は、多くの人が、企業社会の中で働くに際して遭遇するであろう具体的な問題を通して、労働法を学ぶところにある。たとえば、賃金の引き下げ、解雇に対して、労働法はどのようなルールを構築するに至っているのか。仕事と家庭を両立するという理念に対して、法はどのような態度を示しているのか。さらには、M&Aという企業組織再編において労働法がどのように関わってくるのか。日本的雇用慣行の変化や、少子化への対応等の中で起こっている現実的な問題を取り上げて、講義を進めたい。また、以上のような課題に取り組むために、法律論だけではなく、企業内人事制度の変貌等の具体的な社会的変化についても随時言及したい。

【授業計画】

- 1 労働法の基本構造
 - 2 人事システムの仕組み
 - 3 使用者とは、労働者とは
 - 4 解雇
 - 5 解雇規制の政策的課題
 - 6 有期労働契約の終了
 - 7 労働条件の決定と変更ー就業規則ー
 - 8 労働条件の決定と変更ー労働協約ー
 - 9 賃金差別
 - 10 採用、試用期間
 - 11 配転
 - 12 休職
 - 13 懲戒
 - 14 まとめ
 - 1 男女雇用機会均等法ーセクシュアルハラスメントを中心にー
 - 2 少子高齢化への対応
 - 3 成果主義賃金制度ー降格、人事評価ー
 - 4 内部告発
 - 5 労働時間、休暇①
 - 6 労働時間、休暇②
 - 7 出向、転籍
 - 8 合併、営業譲渡
 - 9 会社分割
 - 10 営業秘密の保護
 - 11 秘密保持・競業禁止特約
 - 12 職務発明
 - 13 労働者派遣
 - 14 労使紛争の解決システム
 - 15 まとめ
- なお、以上はあくまで予定であり、順番や講義内容を変更することがあります。

【成績評価の方法】

基本的には期末試験によって評価する。

【テキスト】

最初の授業で指示する。

【参考文献】

最初の授業で指示する。

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| ロシア語 I a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 2単位 | 国 松 夏 紀 |

【講義概要・学習目標】

これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正確には、つまりロシア語風には「アルファヴィート」であり、33文字あります。英語より7文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音（やはり独特の音がいろいろあります）を練習して覚えることから始めます。そして、初級の基本的文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ感覚的にロシア語に慣れることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習しましょう。

【授業計画】

教科書を開くと「まえがき」に次のように書かれています。「テキストを親しみやすいものにするため、かわいいハムスターとその飼い主家族の物語を展開させ、イラストもたくさん入れました。ハムスターのフォーマー君や熊のミーシカ君と一緒にロシア語の世界に遊んでみてください」と。せっかくですから、できるだけ楽しく授業を進めるつもりです。全13課ですから、2回の講義で1課のペースということになります。

【成績評価の方法】

出席を何よりも重視します。とにかく、たと予習が間に合わなくともめげずに出てきてロシア語に触れること。その上で、春学期末と秋学期末の試験で総合的に評価します。

【テキスト】

諫早勇一・服部文昭・大平陽一著『セメスターのロシア語読本』白水刊

【参考文献】

辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| ロシア語 I b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 2単位 | 杉 野 ゆ り |

【講義概要・学習目標】

ロシア語は、ロシア連邦に暮らす一億五千万人が使用し、CISの国々でも異なる民族間のコミュニケーションの道具として使われています。ロシアは、今後経済成長が期待されているBRICsの一国です。極東の町、ウラジオストクは、大阪から飛行機で約二時間であるにも拘わらず、ロシアは、日本人にとってまだ未知の国です。ロシア語を勉強して奥深く豊かなロシアを知りましょう。チャレンジ精神のある学生の参加を求めます。

【授業計画】

教科書は10課から成り立っています。1課につき2回以上の授業時間をかけて学習し、プリント等の予備教材で応用力をつけます。

【成績評価の方法】

欠かさず授業に出席して根気強く勉強する態度と意欲を重視します。平常点（出席回数、小テスト）及び春秋学期の定期試験で評価します。

【テキスト】

諫早勇一他「セメスターのロシア語」（白水社）

【参考文献】

露和辞典必携

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| ロシア語Ⅱ a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 2単位 | 国 松 夏 紀 |

【講義概要・学習目標】

「ロシア語Ia・Ib」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語の会話文を読み、それを基にして話したり、聞いたりする練習や書く練習もします。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、まだ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し、補いながら、こまめに辞書を引きつつ読んでいきましょう。それと同時に、教科書添付のCDなどで、音を聞き、自分も精一杯声を出して滑らかに読めるように練習してください。地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けることでしょう。

【授業計画】

教科書は全部で20課あります。冒頭の「文字と発音」を1課分とすると21課です。1回の講義につき、1課仕上げると、春学期と秋学期で楽に1冊修了することになるはずですが。

しかし、なかなか予定通りにいかないのが、教室での語学学習です。適度に緩急をつけながら、とばせるところはとばし、ジックリすべきところはユックリ時間をかけましょう。

【成績評価の方法】

必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、とにかく教室に出てくること。その「平常点」と、春学期末・秋学期末の試験により、総合的に評価します。

【テキスト】

桑野 隆 著
『CDエクспレス ロシア語』白水社刊

【参考文献】

授業中随時、広くロシア関係の話題を提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| ロシア語Ⅱ b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 2単位 | 杉 野 ゆ り |

【講義概要・学習目標】

基礎文法をさらに詳しく補充し、辞書をひいて文章を読む力、及び作文の力をつけるのが目的です。テキストにふくまれている会話の文章もマスターしてください。ロシアで生活しても日常会話に困らない実力を付けましょう。

【授業計画】

教科書は「文字と発音」に加えて、10課のテキストと文法解説からなります。1課につき2～3回の授業時数をかけて進みます。

【成績評価の方法】

欠かさず授業に出席して意欲的に勉強する態度を重視します。平常点（出席、小テスト）及び春秋学期の定期試験で評価します。

【テキスト】

戸辺又方「一年生のロシア語」（白水社）

【参考文献】

露和辞典必携

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| 論 述 作 文 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 4単位 | 岩 男 久仁子 |

【講義概要・学習目標】

文章で、自分の意見を明確に表現できるようになる。それは、読み手に理解されるような文章を書けるようになることである。また、人前での「発表」をする練習も取り入れる。

時間中は手書きで原稿を書くが、それを自ら添削し、書き直して提出する時にはパソコンのワープロソフトで作成したものを、提出する。

【授業計画】

<春学期>

自己紹介、履歴書など、自分の事柄を中心としたテーマで、毎回800～1000字程度の文章を書く。テーマは授業時のはじめに伝える。

<秋学期>

一つのテーマを決めて「論文」を仕上げる。「卒業論文」を書くために必要なスキルを身につける。参考文献の探し方、注釈の付け方など。

【成績評価の方法】

筆記による試験は行わない。出席重視。遅刻厳禁（欠席とみなす）。

文章の評価は個々の努力により評価する。

【テキスト】

・必要時にプリントを配布。

【参考文献】

授業時に紹介する。

【備考】

毎回授業時に用意するもの

- ・国語辞典（電子辞書可、辞書代わりの携帯電話は不可）
- ・論述作文用の原稿用紙

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| 論 述 作 文 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 4単位 | 大 野 順 子 |

【講義概要・学習目標】

まず『文章を書く』という作業に慣れるため、さまざまなテーマや課題、具体的な社会問題（特に教育・国際・環境・人権・青少年問題など）、本や新聞記事等を取り上げ、それぞれについて毎時、小論文（800字～1000字程度を予定）を作成したり、まとめる作業（要約）（同程度）を行います。そして、最終的に大学生に求められる基本的な論文を完成できるまでの能力を身につけることまで到達することを目標にします。

【授業計画】

【春学期】

基本的な論文の書き方を身につけ、『文章を書く』ことに抵抗なく取り組んでいける姿勢をつくるためには、実際に文章を書く作業を継続していくことが重要です。そのため、特定のテーマを挙げ、それについて文章を書く訓練をします。同時に、論文の構成や情報収集／参考文献の検索方法等についても学習します。また、毎時の課題論文を受講生間で共有し、良い点、悪い点を互いに指摘しあう（批評）ためにも各自発表（プレゼンテーション）をします。

【秋学期】

それぞれ関心のある内容について、『具体的なテーマ』を設定し、本格的な論文作成に向けて準備を進めます。調査が必要な場合は調査方法や分析の仕方を、それぞれ個別に指導しながら進めていきます。テーマについては夏期休暇中に考え、進め方の詳細についてはその都度サポートします。

※授業時の課題は手書きでも構わないが、後半の論文作成はパソコンを使用する。

【成績評価の方法】

1. 出席（遅刻は欠席扱い）
 2. 毎時の課題小論文（夏期休暇中の課題有）
 3. 授業への積極的参加
 4. 課題等の提出期限厳守
- 以上により、総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに沿ったレジュメを配布する。

【参考文献】

「レポート・論文の書き方入門（改訂版）」慶應義塾大学出版会
「論文の書き方マニュアル ステップ式リサーチ戦略のすすめ」
花井等・若松篤 著
「Doing Your Research Project」 Judith Bell 著

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 論述作文 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 03 | 通期 | 4単位 | 木 下 昌 巳 |

【講義概要・学習目標】

文章の大きな目的は、自分の考えていることを文章によって自分以外の人に伝えることである、せっかくよい考えをもっている、ただ漫然と書いてあったら、それはなかなか読み手には伝わらないだろう。たとえば大学の授業の課題として提出するレポートを書くときに、どれほど綿密に資料を調べたとしても、どれほど独創的な考えを持っていたとしても、読み手に理解されるような仕方適切に整理され論理的に書かれていなければ、それはけっしてよいレポートにはなりえない。文章にはしかるべき書き方がある。この授業では、文章を実際に書くことを中心として、広い意味で文章を書く技術を身につけてもらうことを目指す。

【授業計画】

一ヶ月に2本のペースで、実際に文章を書いて提出する。

【成績評価の方法】

提出された作文による。

【テキスト】

とくに指定しない。

【参考文献】

授業中に指示する。

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 論述作文 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 04 | 通期 | 4単位 | 小 柳 伸 顕 |

【講義概要・学習目標】

他人とのコミュニケーションにはいろいろな手段があります。身体表現、話すこと、絵をかくこと、音にすること等を挙げることができます。なかでも文字（文章）を書くことは、欠かせない手段です。文字（文章）を通して、自分の意志、意見を正確に相手に伝えるためには、日常的な訓練が必要です。授業では、その点を重視し、毎回、テーマを定め作品を書きます。作品は、添作し、意見を書き返却します。

【授業計画】

1. 自分を紹介する。他人を紹介する文章を書く。
2. 資料（新聞記事、エッセー、小論文、映像etc）について自分の意見を書く。
3. 出されたテーマについて他人と話し合ってみる。
4. 夏休み、冬休みには、各1冊の書物を選び、長い文章を書いてみる（休み前に提示）。
5. 1年間うけた授業についてまとめてみる。

【成績評価の方法】

1. 出席、2. 作品の提出、の二つにより評価。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

必要に応じて、紹介。

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 論述作文 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 05 | 通期 | 4単位 | 三 浦 俊 介 |

【講義概要・学習目標】

三浦の「論述作文」はレポート・論文の書き方を修得することを学習目標としている。学生諸君は、前期のうちにレポートの書き方の基本を学習し、前期レポートを書く。後期は前期レポートを訂正増補して、修了論文を書く。学生諸君は論文集として印刷製本する予定である。「論述作文」を学ぶことは、ゼミの論文執筆だけでなく、論述式のテスト全般や就職試験などにもきつと役立つだろう。本学以外にも論文の書き方を指導している大学はあるが、本学のように少人数制で開講しているところはない。三浦は、この、他に例を見ない、すばらしい講座の恩恵を蒙らないのは損だと思う。できるだけ多くの学生に「論述作文」を受講してもらいたい。継続的な受講が必須である。

【授業計画】

- 1、ガイダンス
- 2、原稿用紙の使い方
- 3、ワープロソフトの使用法
- 4、二項対立表
- 5、論文執筆の十段階
- 6、論題を疑問文にすること
- 7、事実と意見
- 8、レポートの構成
- 9、パラグラフ・ライティング
- 10、引用と要約
- 11、補注と参考文献
- 12、レポート・論文の仕上げ

【成績評価の方法】

- ① 年度末の修了論文を重視する。修了論文を出さないと不可。
- ② 毎回出席を取り、評価の参考にする。欠席過多者は不可。
- ③ ほぼ毎回の提出物も参考にする。

【テキスト】

特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）筑摩書房
 清水幾太郎『論文の書き方』（岩波新書）岩波書店
 小山田和久『論文の教室』（NHKブックス）NHK出版
 橋内 武『パラグラフ・ライティング入門』研究社
 その他、多数。随時紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 論述作文 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 06 | 通期 | 4単位 | 村 田 佳 隆 |

【講義概要・学習目標】

論理的で明快な文章を書くための訓練をするのが授業の目標である。実際に文章を書いてみて、その過程を振り返り、自分の思考や表現を鍛え直す。さらにそれを次に生かしていく。訓練はこのプロセスの繰り返しである。たくさんの文章、たくさんの言葉をインプットすること、自分の頭の中でもう一度考え直してみること、他人にわかるような形に作り直すこと、以上のことを心がけてほしい。

【授業計画】

- ・さまざまな種類の文章に実際に当たってみる。
- ・自分自身の意見を短文で表現できるようにする。
- ・最終的な「作品」を仕上げる。
- ・長期休暇には作文を課す。

【成績評価の方法】

出席と提出された作品による平常評価。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

授業中に指示する。

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 論述作文 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 07 | 通期 | 4単位 | 生 瀬 克 己 |

【講義概要・学習目標】

データの分析をふまえた論理的・実証的な文章をめざす。

【授業計画】

毎回、書くことが基本である。

【成績評価の方法】

絶対の出席重視。

【テキスト】

特には指定しない。

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|-------|
| 論述作文 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 08 | 通期 | 4単位 | 深 澤 徹 |

【講義概要・学習目標】

春学期では、ワープロは一切使わない（秋学期からワープロ入力する）。一字一字刻み込むようにして文章を作って行く、そうした地道な作業に力点を置く。ワープロは便利で簡便なツールであり、これによって文章の作成は極めて容易になった。私自身もこれを簡便な道具として日々常用している。しかし簡便な分、それに反比例してそこから生み出される文章は軽くて薄っぺらなものになってしまう危険性が常につきまとう。ワープロ使用の文章作成は行わず、手書きの実践を繰り返すことに徹しようと思う。言葉を使い捨てにせず、一つ一つ大切に使うことで自己との対話を試みる、そうした場として本科目を設定したい。

【授業計画】

春学期は、身近な題材から初めて、次第に自己の周囲に広がる社会や政治、経済や国際問題へと題材を広げ、自由に800字程度の文章を書いてもらう。

秋学期は、グループに分けてプレゼンテーション形式で講義を進める。各グループごとにテーマを決め、情報収集して発表してもらい、意見交換の上、1200字程度の小論文形式の文章を繰り返し書く練習をする。

【成績評価の方法】

試験もレポートもない代わりに、出席を最も重視する。各人の評価はどれだけ作業（文章を書いたり口頭発表をしたり）に積極的に取り組んだかで、総合的に判断する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献】

斉藤美奈子『文章読本さんへ』（講談社・2000）

| 科 目 名 | | | |
|------------|-------|-----|---------|
| 論理学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 山 川 偉 也 |

【講義概要・学習目標】

論理的に物事を考えることの訓練、これは、現代のグローバル化された時代にあつて最も重視されている事柄である。この講義では、論理的に推論することの訓練を徹底的に行いたい。考えることの嫌いな人にとっては少しばかり苦痛かもしれないが、努力する人には楽しい授業になる、と思う。

【授業計画】

筋道を立てて考えるとは、どういうことであるかの解説から始め、次第に命題論理の基本の習得、その簡単な練習問題を解く訓練へと入っていき、キャロルの格子図を用いた命題論理や述語論理の訓練の領域へと進んでいくことにする。

【成績評価の方法】

たえず小テストを行う。その結果を重視するから、常時出席していなければならない。であるから、出席率も重視する。

【テキスト】

山川・清水共著『論理開眼』世界思想社

【備考】

<02~04生>

共通自由科目として、J生対象外

J生は学科教育科目